

I 2018（平成 30）年度 事業概要

平成 30 年度 一般社団法人日本私立看護系大学協会社員総会報告

開催日時 平成 30 年 7 月 13 日（金曜日） 午前 10 時 00 分から午後 0 時 30 分

開催場所 東京都千代田区九段北 4 丁目 2-25（アルカディア市ヶ谷 3 階富士の間）

出席社員数 総社員数 561 名、出席社員数 465 名（内訳 本人出席 254 名 委任状出席 211 名）
社員の議決権総数 561 個、出席社員の議決権数 465 個

審議事項

【第 1 号議案 平成 29 年度事業活動報告及び決算・監査報告に関する件】

1) 平成 29 年度理事会報告

議長大島弓子会長より、平成 29 年度年次報告書に基づき、理事会報告を行った。

2) 平成 29 年度事業活動報告

恵美須文枝副会長より、平成 29 年度年次報告書に基づき、「大学教育委員会」、「研究活動委員会」、「国際交流委員会」、「大学運営・経営委員会」、「渉外委員会」、「広報委員会」の事業報告を行った。

3) 収支決算・監査報告

出野慶子財務担当理事より総会資料「平成 29 年度日本私立看護系大学協会収支決算書」、「正味財産増減計算書」「貸借対照表」「財産目録」に基づき平成 29 年度決算報告が説明された。

太田喜久子監事より平成 30 年 5 月 11 日に実施した平成 29 年度の監査報告があった。議長により、その承認を求めた結果、445 個の過半数の賛成を得て承認された。

【第 2 号議案 定款の一部変更に関する件】

伊藤直子業務執行理事より、定款の変更について、「定款一部改訂新旧対照表」に基づき説明があった。議長により、定款変更することにつきその承認を求めた結果、447 個の賛成を得て承認された。

【第 3 号議案 平成 30 年度役員選任に関する件】

1) 理事・監事及び補欠役員の選任に関する件

議長より、平成 30 年度より役員候補者の選出について選挙制を導入するため、本定時社員総会の終結時をもって任期が満了する理事小川妙子、理事清水房枝、監事野並葉子及び監事太田喜久子は退任し、その他の現役員は本定時社員総会の終結時をもって辞任にする旨の説明があった。その後任の役員について、各選挙区において選挙を行った結果、次のとおり理事、監事及び役員補欠が選出されたことの説明があり、新たに理事、監事及び補欠役員を選任することにつき、議場にその承認を求めた結果、445 個の賛成を得て承認された。

【北海道・東北】

理事 安藤 広子（学長 日本赤十字秋田看護大学 看護学部看護学科）

理事 三国 久美（学科長 北海道医療大学 看護福祉学部看護学科）

【関東（東京以外）】

理事 小松 浩子（学部長 慶應義塾大学 看護医療学部看護学科）

理事 島袋 香子（学部長 北里大学 看護学部看護学科）

理事 春山 早苗（学部長 自治医科大学 看護学部看護学科）

【東京・甲信越】

理事 堀内 成子（学部長・研究科長 聖路加国際大学 看護学部看護学科）

理事 堀内 ふき（学長 佐久大学 看護学部看護学科）

【中部】

理事 大島 弓子（学科長 豊橋創造大学 保健医療学部看護学科）

理事 山口 桂子（学部長 日本福祉大学 看護学部看護学科）

【近畿】

理事 高見沢 恵美子（学部長 関西国際大学 保健医療学部看護学科）

理事 野並 葉子（学部長 神戸女子大学 看護学部看護学科）

理事 道重 文子（学部長 大阪医科大学 看護学部看護学科）

【中国・四国・九州・沖縄】

理事 小山 真理子（学長 日本赤十字広島看護大学 看護学部看護学科）

理事 波川 京子（学科長 川崎医療福祉大学 医療福祉学部保健看護学科）

理事 三橋 睦子（学科長 久留米大学 医学部看護学科）

【短期大学卒】

理事 久保 かほる（学科長 埼玉医科大学短期大学 看護学科）

【監事】

監事 荒木田 美香子（副学部長・学科長 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部看護学科）

監事 鎌倉 やよい（学長 日本赤十字豊田看護大学 看護学部看護学科）

2) 指名理事の選任に関する件

新会長に就任（正式には本社員総会終結後の臨時理事会で就任）した大島弓子理事より指名理事に河口てる子氏（日本赤十字北海道看護大学）、長澤正志氏（淑徳大学）2名が推挙され、議長より、議場にその承認を求めた結果、それぞれ450個、442個の賛成を得て承認された。

3) 任期

理事、監事の任期は、2018年7月13日から、2020年度社員総会終結時まで。

報告事項

1) 平成30年度事業活動計画及び予算に関する件

恵美須文枝副会長より、「事業活動計画書」に基づき、平成30年度事業活動について報告があった。続いて出野慶子財務担当理事より、「平成30年度一般社団法人日本私立看護系大学協会予算書」に基づき収支予算について報告があった。出野慶子財務担当理事より、現在の年会費30万円の減額についてシミュレーションを行った旨の説明があった。

2) 規程等の整備に関する件

伊藤直子業務執行理事より、諸規程等の整備について報告があった。

その他

1) 日本看護学教育評価機構の設立についての情報提供

一般財団法人日本看護学教育評価機構準備委員会、菱沼典子氏より情報提供があった。

2) 2019年度の社員総会日程と場所について

議長より2019年7月12日（金曜日）アルカディア市ヶ谷において開催予定と説明があった。

以上をもって本日の審議・報告事項が終了したので議長は閉会を宣した。

2017（平成 29）年度一般社団法人日本私立看護系大学協会決算書

（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

1. 一般会計

〈収入〉

（単位：円）

科 目	平成29年度予算	平成29年度決算	差 異	備 考
会 費	54,600,000	54,600,000	0	会 費@ 300,000× 178 校 入会金@ 200,000× 6 校
銀 行 利 息	140,000	93,215	46,785	有価証券 普通預金
預 り 金	2,500,000	1,970,487	529,513	源泉所得税、住民税、社会保険料
収 入 小 計	57,240,000	56,663,702	576,298	現金及び預金
前 年 度 繰 越 金	29,356,992	29,356,992	0	
合 計	86,596,992	86,020,694	576,298	

〈支出〉

科 目	平成29年度予算	平成29年度決算	差 異	備 考
事業費	46,144,000	38,443,083	7,700,917	
大学教育委員会	4,594,000	3,192,411	1,401,589	ポスター印刷費等削減による
研究活動委員会	1,205,000	781,416	423,584	委員会旅費削減のため
研究助成事業	5,650,000	4,374,357	1,275,643	
国際交流委員会	1,246,000	391,866	854,134	旅費および業務委託費（テープ起こし）等経費削減による
大学運営・経営委員会	1,921,000	2,922,903	△ 1,001,903	Q-JPNCS（2 年分）報告書作成の業務委託費の増額による
渉外委員会	690,000	600,291	89,709	
広報委員会	2,766,000	2,573,424	192,576	
人 件 費	7,800,000	7,026,319	773,681	総会人件費、事務局員等人件費
消 耗 品 費	1,000,000	740,084	259,916	総会用品、会長表彰記念品代等
旅 費 交 通 費	3,322,000	3,650,251	△ 328,251	理事会等出席交通費（メール会議を除く理事会7回開催）
印 刷 費	2,850,000	623,351	2,226,649	年次報告書等印刷経費減額による
賃 借 料	3,600,000	3,376,896	223,104	事務所賃料、総会集計機リース料
会 議 費	3,600,000	2,775,582	824,418	総会、理事会経費
業 務 委 託 費	5,900,000	5,413,932	486,068	動画配信サーバー保守料、ホームページ改修他
管理費	11,920,000	11,844,711	75,289	
人 件 費	5,200,000	5,543,866	△ 343,866	事務局員人件費等
消 耗 品 費	1,000,000	829,232	170,768	文具他、選挙人・被選挙人登録用ソフト
光 熱 水 費	600,000	488,541	111,459	事務所光熱水費
旅 費 交 通 費	200,000	543,684	△ 343,684	近地交通費、選挙管理委員会交通費（8 回× 3 人）
通 信 費	800,000	555,942	244,058	切手・郵送費、電話・電報代、振込手数料
印 刷 費	750,000	634,807	115,193	コピー機利用料
賃 借 料	2,400,000	2,526,084	△ 126,084	事務所賃借料、コピー機・電話機リース料
会 議 費	200,000	59,549	140,451	管理会議等
業 務 委 託 費	700,000	590,206	109,794	公認会計士業務委託契約料、Web 管理契約料
租 税 公 課	70,000	72,800	△ 2,800	法人住民税、収入印紙税
将来事業特別会計繰入金	1,000,000	1,000,000	0	将来事業特別会計積立金
維持管理特別会計繰入金	2,000,000	2,000,000	0	維持管理特別会計積立金
退職給付引当金繰入金	276,000	267,514	8,486	
預 り 金	2,500,000	1,861,559	638,441	源泉所得税、住民税等、社会保険料
前期末未払金支払支出	1,000,000	792,166	207,834	
期 末 未 払 金	△ 1,000,000	△ 1,521,541	521,541	
支 出 小 計	63,840,000	54,687,492	9,152,508	
次 年 度 繰 越 金	22,756,000	31,333,202	△ 8,577,202	（予備費を含む）
合 計	86,596,000	86,020,694	575,306	

法人会計により、事務所賃借料と人件費は、事業費と管理費で6対4で按分しています。

2. 特別会計

(1) 将来事業特別会計

科 目	平成29年度予算	平成29年度決算	差 異	備 考
前 年 度 繰 越 金	6,259,640	6,259,640	0	
繰 入 金	1,000,000	1,000,000	0	
利 息 収 入	0	61	△ 61	
次 年 度 繰 越 金	7,259,640	7,259,701	△ 61	

(2) 維持管理特別会計

科 目	平成29年度予算	平成29年度決算	差 異	備 考
前 年 度 繰 越 金	8,000,000	8,000,000	0	
繰 入 金	2,000,000	2,000,000	0	
次 年 度 繰 越 金	10,000,000	10,000,000	0	

2018（平成30）年度一般社団法人日本私立看護系大学協会予算書

（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

1. 一般会計予算

〈収入〉

（単位：千円）

科 目	平成30年度予算	平成29年度予算	差 異	備 考
会 費	57,700	54,600	3,100	会 費@ 300,000×187校（9校（学部）増） 入会金@ 200,000×8校 ※10校（学部）のうち2学部は同一法人入会済みのため免除
銀 行 利 息	1	140	△ 139	有価証券 普通預金
預 り 金	2,200	2,500	△ 300	源泉所得税、住民税、社会保険料
（ 収 入 小 計 ）	59,901	57,240	2,661	
前年度繰越金	31,333	29,356	1,977	現金及び普通預金
合 計	91,234	86,596	4,638	

〈支出〉

科 目	平成30年度予算	平成29年度予算	差 異	備 考
事業費	45,098	46,144	△ 1,046	
大学教育委員会	4,201	4,594	△ 393	
研究活動委員会	1,331	1,205	126	
研究助成事業	7,298	5,650	1,648	若手研究助成金を1件50万円に増額のため増額
国際交流委員会	1,157	1,246	△ 89	
大学運営・経営委員会	2,112	1,921	191	
渉外委員会	500	690	△ 190	
広報委員会	511	2,766	△ 2,255	年次報告書、会報印刷経費を事業費（印刷費）より支出するため減額
人件費	7,900	7,800	100	総会人件費、事務局員等人件費
消耗品費	700	1,000	△ 300	総会用品、会長表彰記念品代等
旅費交通費	4,500	3,322	1,178	理事会等出席交通費
通信費	300	0		事業費に通信費が必要なため（これまでは管理費で支出していた）。
印刷費	3,988	2,850	1,138	会報、年次報告書、Q-JPNCS報告書印刷費等
賃借料	4,000	3,600	400	事務所賃料、総会集計機リース料
会議費	3,600	3,600	0	総会、理事会経費
業務委託費	3,000	5,900	△ 2,900	動画配信サーバー保守料、（平成29年度はホームページ改修があったため減額）
管理費	12,330	11,920	410	
人件費	5,800	5,200	600	事務局員人件費等
消耗品費	700	1,000	△ 300	文具他、会計ソフト等
光熱水費	600	600	0	事務所光熱水費
旅費交通費	300	200	100	近地交通費、選挙管理委員会交通費
通信費	300	800	△ 500	切手・郵送費、電話・電報代、振込手数料
印刷費	750	750	0	コピー機利用料
賃借料	2,600	2,400	200	事務所賃料、コピー機・電話機リース料
会議費	200	200	0	管理会議等
業務委託費	1,000	700	300	公認会計士業務委託契約料、Web管理契約料、サーバーセキュリティ
租税公課	80	70	10	法人住民税、収入印紙税
将来事業特別会計繰入金	1,000	1,000	0	将来事業特別会計積立金
維持管理特別会計繰入金	0	2,000	△ 2,000	維持管理特別会計積立金
退職金引当金	284	276	8	
預 り 金	2,500	2,500	0	源泉所得税、住民税等、社会保険料等
前期末未払金	1,000	1,000	0	
期末未払金	△ 1,000	△ 1,000	0	
予備費	5,000	0	5,000	
（ 支 出 小 計 ）	66,212	63,840	2,372	
次年度繰越金	25,022	22,756	2,266	
合 計	91,234	86,596	4,638	

2. 特別会計

（1）平成30年度将来事業特別会計

科 目	平成30年度予算	平成29年度予算	差 異	備 考
前年度繰越金	7,259	6,259	1,000	
繰入 金	1,000	1,000	0	
利息 収 益	0	0	0	
合 計	8,259	7,259	1,000	

（2）平成30年度維持管理特別会計

科 目	平成30年度予算	平成29年度予算	差 異	備 考
前年度繰越金	10,000	8,000	2,000	
繰入 金	0	2,000	△ 2,000	
利息 収 益	14	0	14	
合 計	10,014	10,000	14	

2018（平成30）年度 理事会報告

第1回臨時理事会（電磁的記録による）理事会

平成30年度新規会員校（4月4日10時時点までに入会申込書が届いた学校）6校の入会について、4月4日付で大島弓子代表理事が理事及び監事の全員に対して提案書を発した。平成30年4月9日までに理事全員から電磁的記録により同意の意思表示を、監事全員から電磁的記録により異議がない旨の意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条及び当法人の定款第41条の定めに基づき、提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

第2回臨時理事会（電磁的記録による）理事会

草柳浩子氏（上智大学）の選挙立会人の就任について4月25日付で大島弓子代表理事が理事及び監事の全員に対して提案書を発した。平成30年5月2日までに理事全員から電磁的記録により同意の意思表示を、監事全員から電磁的記録により異議がない旨の意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条及び当法人の定款第41条の定めに基づき、提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

第1回定例理事会

【日 時】平成30年5月27日（日） 10時00分～16時00分

【報告事項】

- 1) 坪倉繁美選挙管理委員長より、役員選挙経過について報告があった。2018（平成30）年度理事・監事候補者一覧（役員候補者名簿）が理事会に提出され、各区分けにおける理事定員の確定、選挙人・被選挙人登録状況が報告された。
- 2) 委員会活動報告について、大学運営・経営委員会の道重文子理事より、JANPUと共同調査に関する契約を締結したこと、Q-JPNCSの報告書についての進捗の報告があった。また、大学教育委員会の小川妙子理事より、8月4日に行う研修会の申込は現時点で72名であることが報告された。
- 3) 委員会活動マニュアルの修正について、恵美須文枝理事より修正を行ったことが報告された。
- 4) 内部監査を長澤正志相談役にして頂いたと報告があった。

【審議事項】

- 1) 議事録確認について、2017（平成29）年度第4回定例理事会議事録案、2017（平成29）年度第6回臨時理事会議事録案、2018（平成30）年度第1回臨時理事会議事録案、2018（平成30）年度第2回臨時理事会議事録案を確認し承認された。
- 2) 2018年度役員（理事・監事）候補者、補欠者の選任案策定について、選挙管理委員会より提出された役員候補者案を承認し、総会にて諮ることとなった。また2名の指名理事は新会長が指名することが確認された。
- 3) 2018年度重点事業について、大島弓子会長より説明があり承認された。
- 4) 定款の改正案について、伊藤直子理事より定款変更の説明があり、継続審議することとなった。
- 5) 2017年度決算について、出野慶子理事より説明があり承認された。
- 6) 2017年度監査報告について、野並葉子監事より報告された。
- 7) 2018年度委員会活動計画について、恵美須文枝理事より、説明され継続審議することとなった。
- 8) 2018年度予算について、出野慶子理事より説明があり承認された。
- 9) 2018年度新規会員校について、伊藤直子理事より説明があり承認された。
- 10) 2018年度社員総会審議・報告事項について、伊藤直子理事より説明があり承認された。
- 11) 社員総会後の講演について、河口てる子理事より説明があり承認された。
- 12) 会報40号（11月1日発行分）の記事構成・スケジュールについて塚本尚子理事より、説明があり承認された。
- 13) 研究助成選考委員の変更について、前山直美理事より説明があり、関西福祉大学の原礼子氏の選考委員就任が承認された。

第3回臨時理事会

【日 時】平成30年6月24日（日） 13時00分～15時00分

【審議事項】

- 1) 2018年度第1回定例理事会議事録案について確認し承認された。
- 2) 定款・規程の改正案について、伊藤直子理事より説明があり、社員総会において諮ることとした。また、経理規程と個人情報の保護に関する規程は原案通り承認された。
- 3) 2018年度委員会活動計画案について、恵美須文枝理事より説明があり承認された。
- 4) 2018年度社員総会審議・報告事項案について、伊藤直子理事より説明があり承認された。
- 5) 出野慶子理事より会費を下げた場合のシミュレーションについて説明があり、社員総会において説明することとなった。
- 6) 大島弓子会長より日本看護学教育評価機構の設立について、JANPUの理事である菱沼典子先生に情報提供を社員総会で説明してもらうことが報告された。

【報告事項】

- 1) 2018年度理事会組織について、大島弓子会長より現理事に新理事への引継ぎがお願いされた。
- 2) 日本看護協会「ヘルシーワークプレイス（健全で安全な職場）」キャンペーンについて後援することが報告された。

第4回臨時理事会

【日 時】平成30年7月13日（金） 13時00分～13時20分

代表理事候補者と指名理事候補者について、定時社員総会の休憩中に行われた役員候補者会議において、平成30年度新会長と指名理事候補者の選出では、平成30年度代表理事は、大島弓子氏とすること、指名理事は、河口てる子氏（日本赤十字北海道看護大学）、長澤正志氏（淑徳大学）2名を指名理事として推挙することが、出席理事候補者全員の一致をもって承認され、社員総会において諮ったところ承認された旨の説明があった。正式に大島弓子氏を代表理事に選定することについて、出席した理事の全員一致をもって承認可決された。

第2回定例理事会

【日 時】平成30年7月30日（月） 10時00分～13時00分

【審議事項】

- 1) 2018年度重点事業・活動計画と役割について、大島弓子会長より説明があり承認された。
- 2) 2018年度役員・委員会組織、委員会活動方針について、大島弓子会長より説明があり、各理事の担当を決定し、副会長は河口てる子理事、島袋香子理事、業務執行理事のうち財務担当は長澤正志理事、業務執行担当は山口桂子理事となった。
- 3) 2018年度研究助成事業採択者について、野並葉子理事より説明があり承認された。
- 4) 平成30年7月豪雨に対する支援への対応について、災害救助法が適用された地区にある17校に実態調査することとなった。
- 5) 日本看護系大学協議会「APN グランドデザイン委員会」への委員派遣について、渉外委員会委員長兼副会長の河口てる子理事を委員として派遣することとなった。

【報告事項】

- 1) 研究助成採択者の報告の延期と研究期間の延長（各1名）について野並葉子理事より報告された。

第5回臨時理事会

【日 時】2018年10月22日（月）10時00分～12時20分

【審議事項】

- 1) 一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力のあり方について
 - ・大島弓子会長が日本私立看護系大学協会の会長として一般財団法人日本看護学教育評価機構の評議員に就任することが報告された。
 - ・日本看護学教育評価機構の設立時の協力について、一般財団法人日本看護学教育評価機構設立準備委員会へ検討依頼していた件についての回答に基づき審議され、一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力をすることを決議した。会員校に説明しながら理事会と社員総会の審議を経て慎重に審議を進めていくこととなり、次回理事会において継続審議することとなった。会員校への審査料補助としては、実際の受審校の数が見えないので2019年度まで一般財団法人日本看護学教育評価機構の動きを見ながら検討していくこととなった。
- 2) 2018年度日本私立看護系大学協会組織図案について審議した。
- 3) 定例理事会の開催および審議に関する予定について調整した。

【報告事項】

- 1) 平成30年7月豪雨アンケートと北海道胆振東部地震アンケートについて報告され、災害時の対応についての規程がないので作る必要があるのではないかなどの意見が出された。
- 2) 大学教育委員会の2月の研修会開催について報告された。
- 3) 各委員会活動マニュアルの再整備・実施要領の改正にむけ報告された。
- 4) 日本看護協会の労働政策部橋本氏と矢野氏より、新卒看護学生の就職支援についての情報提供があり、広報委員会より会員校へ周知することとなった。

第3回定例理事会

【日 時】2018年11月2日（金）10時00分～13時30分

【審議事項】

- 1) 一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力の在り方について、財政的援助協力の視点から審議し、次回理事会において継続審議し、社員総会において審議することが決議された。
- 2) 一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力について会員校への周知の過程について、3月21日に説明会を開催することとなった。
- 3) 中期決算について、2018（平成30）年度一般社団法人日本私立看護系大学協会中期決算書（案）に基づき説明があり承認された。
- 4) 2019年度社員総会講演内容および講演者について、教育の質の評価について講演会をすることが提案され承認された。
- 5) 研究助成に係る規程の改正，研修会の実施について（研究活動委員会）
 - (1) 研究助成に係る規程等の改正について研究助成事業規程（案）は承認され、研究助成事業規程施行細則（案）、研究助成募集要項（案）、研究助成事業若手研究者研究助成研究計画書修正案は出された意見を踏まえ、再度、各理事にも意見を求め、検討することとなった。
 - (2) 研究セミナー（関西地区）の開催について、2019年2月10日に関西地区（神戸女子大学）で開催することが説明され承認された。
- 6) 広報第41号の記事構成について（広報委員会）

広報第41号の記事構成案に基づき説明があり、承認され、特色ある取り組みとして、私立看護系大学で私立大学研究ブランディング事業に採択された大学2校に執筆依頼することが提案され承認された。
- 7) 来年度委員会活動概括案とその調整に向けて、次回理事会で調整審議することとなった。

【報告事項】

- 1) 各委員会活動報告について、大学教育委員会、研究活動委員会、国際交流委員会、大学運営・経営委員会、渉外委員会、広報委員会より下記のとおり報告された。
 - ・安藤広子理事より、大学教育委員会事業活動報告（中期）・予算執行状況に基づき報告があり、2月の研修会について説明があった。また、次年度の活動は、地方開催を検討していること、新任教員については引き続き実施する方向で検討中であると報告があった。
 - ・島袋香子理事より、研究活動委員会事業活動報告（中期）・予算執行状況に基づき報告があった。2018年度研究助成の採択者と研修会について、若手研究者の報告に関するアンケート記載内容について「研究の質を向上させるための支援の必要性」についての記載があり、委員会として、規程等に反映させた経緯の説明があった。
 - ・小山真理子理事より、国際交流委員会事業活動報告（中期）・予算執行状況に基づき報告があり、11月11日の研修会は現在参加募集中であり、各理事へ周知の依頼がされた。
 - ・道重文子理事より、大学・運営委員会事業活動報告（中期）・予算執行状況に基づき報告があり、看護学教育経費の実態調査は現在、日本看護系大学協議会と協同実施中であり、短期大学については独自に実施していることが報告された。IRについての研修会の参加者予定者は約80名

でその内約 20 名が事務系職員の方と報告があった。

- ・河口てる子理事より、渉外委員会事業活動報告（中期）・予算執行状況に基づき報告があり、情報収集を主に行い、高度実践看護師のグランドデザイン委員会には委員として渉外委員会委員が参画していることが報告された。
 - ・波川京子理事より、広報委員会事業活動報告（中期）・予算執行状況に基づき報告があり、会報の発刊の他、災害時におけるホームページでの対応、日本看護協会より情報提供があった有料職業紹介事業所についての周知活動について報告された。
- 2) 定款・規程の見直し、修正の方針について、定款・規程の見直しを進めていき、役員選挙に係る規程については3月の理事会において提案することの説明があった。委員会規程については各委員会においても検討するよう依頼があった。また大規模災害発生時の本協会の対応に関する申し合わせについて説明があった。
 - 3) 第6回臨時理事会日程の調整をした。
 - 4) 理事の利益相反について、法令上、理事等が協会と直接または間接の利益相反行為を行う場合は、社員総会又は理事会で承認を得るとされているので、この点が理事等に周知されているのであれば、理事等と協会とで文書を交わす必要がない旨の説明があった。

第6回臨時理事会

【日 時】2019年1月12日（土）13時00分～16時00分

【審議事項】

- 1) 一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力の検討について審議し、現状を踏まえながら引き続き検討していくこととなった。また、2月に一般財団法人日本看護学教育評価機構の評議委員会があることから、進展を期待したいとの意見が出された。
- 2) 一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力について会員校への周知の過程について審議した。
- 3) 2019年度社員総会講演内容および講演者について「2019年度社員総会講演内容および講演者」について、専門分野別評価の意義やメリットとなる点を具体的に話してもらえよう依頼することとなった。
- 4) 定款・規程見直し・修正の方針について、研究助成に係る規程の改正について、一般社団法人日本私立看護系大学協会研究助成事業規程は、原案通り承認され、一般社団法人日本私立看護系大学協会研究助成事業規程施行細則新旧対照表（案）は修正し、承認された。また、一般社団法人日本私立看護系大学協会研究助成募集要項新旧対照表（案）は修正し、承認され、若手研究者研究計画書（修正案）は原案通り承認された。さらに大規模災害発生時の本協会の対応に関する申し合わせも承認された。
- 5) 来年度委員会活動概括案とその調整に向けて各委員会で講師等の重なりがないことが確認され、次回理事会で最終案を審議することとなった。
- 6) 会長表彰について会長表彰の副賞について審議した。
- 7) 今後の理事会日程（2019年5・6月理事会開催）について理事会候補日は、5月26日（日）の午前か午後と6月30日（日）の午後とし、欠席している理事に伺い最終決定することとなった。
- 8) 2017（平成29）年度若手研究助成採択者研究期間延長願いについて、採択者1名の研究期間延長が承認された。

【報告事項】

- 1) 事業活動と研修会開催の実施要領のフォーマットの改正について、事業活動と研修会開催の実施要領の改訂に基づき、変更箇所が確認された。
- 2) 委員会報告
 - ・ アンケート結果に基づき、国際交流委員会小山真理子理事より2018年11月11日に開催した研修会のアンケート結果について報告された。
 - ・ 大学教育委員会安藤広子理事より2月3日に開催予定の研修会について、現在、定員の160名に達したため申込を一時締め切り中であるが、後日動画配信を行う予定であり、会場変更、追加申込ともに行わないことが報告された。
 - ・ 大学運営・経営委員会のJANPUとの合同調査について2月12日に合同委員会が開催されることが荒木田美香子監事（兼JANPU理事）より報告された。
 - ・ 広報委員会波川京子理事より会報41号はゴールデンウィークとの関連で4月26日に発送予定であることが報告された。
- 3) 新規会員校入会案内発送予定に基づき、2019年度新設予定の私立看護系大学8校が確認された。

第4回定例理事会

【日 時】2019年3月21日（木）15時00分～17時40分

【審議事項】

- 1) 一般財団法人日本看護学教育評価機構（JABNE）について、直前に開催された広聴会（一般財団法人日本看護学教育評価機構への本協会の協力についての広聴会）を踏まえ審議した。
- 2) 司法書士との契約について、正式年間契約することとした。
- 3) 規程の改正について、役員候補者選出規程と選挙管理運営申し合わせについて、説明があり次回理事会において審議することとした。
- 4) 事業活動と研修会開催の実施要項の改正について、審議され承認された。
- 5) 2019年度研究助成事業選考委員の委嘱について審議し承認された。
- 6) 研究助成事業・助成金の返還と研究期間延長について、2名の助成金返還と1名の研究期間延長が承認された。
- 7) 2019年重点事項（草案の原案）について説明があり、審議された。
- 8) 2018年度決算案について（決算書及び各委員会決算案）について説明され確認し、決算額は未確定のため5月の定例理事会において正式に承認することとなった。
- 9) 2019年度予算案について（予算書及び各委員会予算案）、説明がされ、決算書と同じく5月の定例理事会において正式に承認することとなった。
- 10) 京都光華女子大学の退会が承認された。

【報告事項】

- 1) 監事退任登記について報告があった。
- 2) 総会時の付帯事業の講演者について審議された。
- 3) 2019年度研究助成募集について報告された。
- 4) 指定規則改定に向けて文部科学省への返答内容について報告された。
- 5) 2019年度理事会日程について確認した。

「一般財団法人日本看護学教育評価機構への本協会の協力についての広聴会」開催

2019年3月21日13時から14時30分までアルカディア市ヶ谷において123人（85校）の参加者のもと、「一般財団法人日本看護学教育評価機構への本協会の協力の在り方について」の広聴会を開催した。河口てる子副会長より「分野別評価の必要性について」、大島弓子会長より「一般財団法人日本看護学教育評価機構への協力について」説明があり、質疑応答の後、閉会した。本件については、引き続き理事会で審議を重ね、7月12日に開催される社員総会において審議することが説明された。

Ⅱ 2018（平成30）年度 事業活動報告

1. 大学教育委員会

1. 趣旨

- ①教育内容（カリキュラム）、方法、評価の調査研究
- ②教員組織、教員の質・能力向上、教育能力・施設設備の調査研究
- ③教育に関するセミナー、ワークショップ等の実施
- ④上記①～③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

○安藤 広子（日本赤十字秋田看護大学）

三国 久美（北海道医療大学）

三橋 睦子（久留米大学）

（委員）

新田 純子（日本赤十字秋田看護大学）、北 素子（東京慈恵会医科大学）

福井 純子（北海道医療大学）、益守 かづき（久留米大学）

3. 活動報告

事業テーマ1：大学新任教員のための研修会 2018

【企画意図】

新任教員のための研修会は、個々の大学では対応が難しいことから、平成26年度から継続して新任教員に求められる知識や情報を提供してきている。今年度は、昨年同様に私学としての特色をより理解できるように看護系私立大学の経営や、私学の理念の特色を反映した教育に関する内容を企画した。また、新任教員の日々の教育活動に必要な看護学教員に求められる資質・能力や効果的な教育などの知識に関する講演を企画した。さらに講演から得た学びを参加者が主体的に共有できるようグループワーク・発表を設定した。

【実施】

（日程）2018年8月4日（土）

（会場）アルカディア市ヶ谷（私学会館）

（プログラム）

- ・講演1. 「看護系私立大学とは」 ―私学の特性と教育課程―

講師：井部俊子先生（前日本私立看護系大学協会会長・聖路加国際大学名誉教授）

- ・講演2. 「看護系大学教員になるとは」 ―教員に求められる資質、効果的な教育方法について―

講師：小山真理子先生（日本赤十字広島看護大学 学長）

- ・グループワーク・発表

【結果】

参加者148名（83校）。グループワーク参加者117名。就任年数1年未満52名（40.3%）、1～5年66名（51.2%）。助教72名（51.8%）、助手47名（33.8%）であった。参加者のアンケート調査では、講演、グループワーク、研修会全体に対する「満足感」と「役立った」の回答はいずれも90%以

上であった。感想は、「自分と同じ立場の方々と交流できてよかった。」「他大学の先生方と交流する機会はとても刺激を受けた。」「教員経験の長い先生にも教育が必要だと思った。」「新任だけでなく2年目3年目での悩みも出てくると思うので継続して参加したい。」など肯定的であった。本事業への今後の希望としては、「3.4年日以降の中堅に向けた研修や話し合える機会があれば」、「東京以外での開催や教育方法・評価」、「実習指導」等であった。当日の講演（午前中のみ）を録画し、本協会ホームページにアップした。

事業テーマ2：研修会「看護学実習指導と評価 ー教員の教育力の向上を目指してー」

【企画意図】

私立看護系大学の急増に伴い、学生の学力の幅は広がっており、教員の教育力の継続的質向上の必要性が一層高まっている。厚生労働省は2010年の「今後の看護教員の在り方に関する検討会報告書」で、看護教員には看護実践能力と教育実践能力のどちらも必要であると述べている。そこで、ケア教育力の向上を目指し看護学実習指導および看護学実習指導の評価について研鑽を深める。

（日 程）2019年2月3日（日）

（会 場）アルカディア市ヶ谷（私学会館）

（プログラム）

・講演1.「看護学実習指導」

講師：安酸 史子 先生（関西医科大学看護学部 教授）

・講演2.「看護学実習指導の評価」

講師：北川 明 先生（帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科 教授）

・グループワーク・発表

【結 果】

参加者128名（67校）。グループワーク参加者64名。参加者の在職期間は、半年未満から10年以上まで幅広く、職位では参加者の56%が助教・助手だった。参加者のアンケート調査の結果では、講演、グループワークに対して90%以上の者が「大変満足」または「満足」と回答した。また、研修会全体について、全員が「大変役に立った」または「役に立った」と回答した。講演の感想は、安酸先生の講演では、「具体例を交えながらの講演で分かりやすかった」「自分のこれまでの実習指導を振り返る機会になった」、北川先生の講演では、「ループリックの理解が深まった」「ループリックの目的や有効性を学ぶことができた」など、いずれも好評だった。グループワークの感想では、「他大学の教員と意見交換ができ学びが深まった」「課題の共有ができた」などであり、多くが肯定的なものだった。本事業への今後の希望として、「関西など東京以外での開催」「実習や入試が終わる3月の開催」「土曜日の開催」などがあり、テーマとして「カリキュラムの考え方」「アクティブラーニング」があげられた。安酸先生と北川先生の講演は、本協会ホームページにアップした。

4. 今後の課題

看護学教育を取り巻く社会の変化が激しい中、長期的な事業活動は具体的な計画を立てにくい状況にある。そのため事業活動計画を進めながら、あわせて情報収集し、変化を踏まえて長期計画へと発展させていきたい。

本委員会の担当する事業である、大学における教育、教員の質の向上に関するものは多岐にわたり、対象とする教員の職位も新任者から管理者に至り、それぞれの対象者のニーズも多様である。今後本協会の会員校である私学の急増を踏まえ、会員校のニーズを把握して事業を企画する必要がある。

一般社団法人日本私立看護系大学協会
 「大学新任教員のための研修会 2018」アンケート結果
 参加者数：148人 参加校数：83校
 アンケート回答者数：141人（回答率：95.2%）

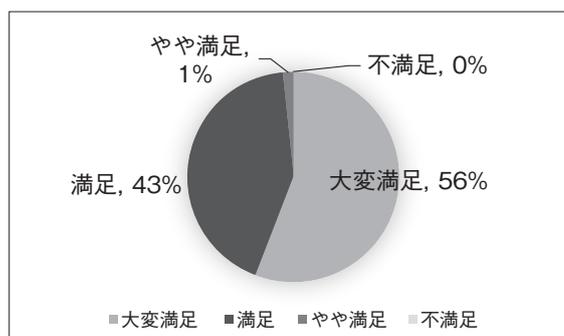
日時：2018年8月4日（土） 10：00～16：00

場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

1. 講演1「看護系私立大学とは」講師：井部俊子（井部看護管理研究所 / 聖路加国際大学名誉教授）

1) 講演の内容について

	人数	%
大変満足	79	56
満足	60	43
やや満足	2	1
不満足	0	0
合計	141	100



2) ご意見・ご感想

- ・「結果にコミット」、その通りだと思う。励まされる思いで聞かせていただいた。
- ・私立大学の根本を知ることができてよかった。看護のアジェンダ資料では、臨床時代に私が考えていることが記載せられていて参考になった。
- ・知ってることもあったが、再認識することができた。サービスの異質性は自分のままでいいとホッとした。
- ・法律のことから大学とはというところまで、わかっていないといけないことをまとめて講演いただき、とても勉強になった。
- ・これからの大学教員に課せられた課題とその解決へのヒントをもらった。
- ・人生100年となると将来を担う学生のために、看護職を目指す学生はもちろんのこと、違う選択をすることになった学生も“看護を学んでよかった”と思える教育ができる教員になりたいと思った。
- ・大学教員としての在り方について知ることができた。
- ・井部先生の講話はそのほとんどにおいて印象深いものがあった。普段、自身が経験している事象（学生との関わり、大学運営の在り方など）についての振り返りができてよかった。
- ・大学教員の仕事、心構えなど理解しやすかった。様々な人生の在り方を認めることの重要性を知ることができた。心に残る話だった。
- ・井部先生のお話のいたるところに信念がありわかりやすかった。大学は高等教育であり「看護学」を教授する場だと思う。だからこそ学生の未来を広げられるよう教員という仕事をしていきたいと再認識できた。
- ・井部先生のご講演は大変勉強になった。教員1年目の私の指針となったように思う。
- ・「サービスの特徴」は今まで自分の思っていたこと、特に教員からの異質性は目からうろこだった。
- ・学生には看護学だけでなく、教養学も充実させることが、生きる・考える力になるのではないかと思った。
- ・大学ならではの組織風土に慣れず、四苦八苦している。これまでの臨床では顔の見えるコミュニケーションが主であったのにメールでのやり取りに時間をとられたり、上司に話しかけづらい雰囲気、苦慮している。
- ・日頃目や耳にすることのなかった法律から自分の役割を考えることができた。楽しく学べた。
- ・今まで避けてきた法律が意味があることを根拠を持って知った。

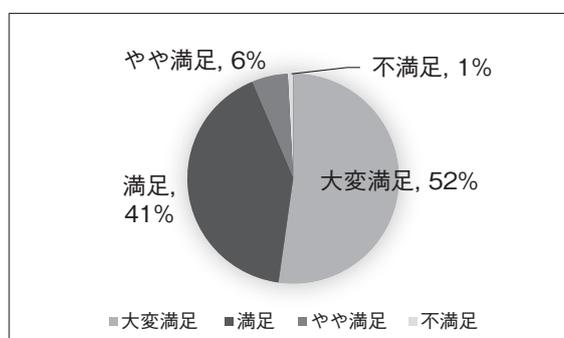
- ・看護系私立大学の流れを知ることができた。2つ目の大学だが、その違いに戸惑うことがある。やはり建学の精神ということの理解や注目が不足していると思った。まだ完成年度だが学生の成果をみれるようにしていかなければと思う。
- ・法的な位置付けを確認でき、自分の使命を再確認することができた。
- ・学生の視野が広がる関りができているだろうか・・・と振り返ることができた。卒後の支援について、今私の大学でも取り組みが始まっている。学生の活躍を知ることは教員の役割でもあると感じる。
- ・とても勉強になった。私は、教員養成を出ているので、その時の学習を振り返りながら聞きました。私学の特徴を踏まえつつ、一教員として精進します。
- ・所属する大学でカリキュラムの改正を行っているが、いろいろな領域からの話を聞くと難しいと感じていた。今回ご講演を受けて目指すものが見えてきそうだと感じた。
- ・私大のルールを再確認できた。
- ・今までこのような研修会を受けたことがなく“これでいいのか”と不安だった。先生方の講演を受け、勇気づけられた。
- ・今まで異議したことや考えたことがなかったことを学べた。
- ・「看護系大学」についてとてもよくわかった。法律のことや今までの流れなども理解でき、知っておくべきことを知ることができたので参加してよかった。
- ・学びが多かった。
- ・井部先生の講演はいつも楽しく聞かせていただいている。看護の視点から常に様々な自分が考えてもいなかったことについてのお話をしてくださるので、とても勉強になります。
- ・看護系私立大学の歴史や世の中の流れを知ることができた。
- ・現在の社会的背景をもとに私学の特性を講演して下さり、今の自分と課題や目指すべきものを明らかにできた。
- ・日頃疑問に思っていた内容について話していただきスッキリした。
- ・客観的に私学の現状と特性、教育課程を理解できた。
- ・現在の私立大学や看護大学のもつ問題や、今後の課題について考えられる内容であった。
- ・大学教員、私大教員としての位置づけや役割を理解することができた。
- ・看護管理についてもう一度勉強したいと思った。
- ・これまであまり法律関係はみていなかったので勉強になった。「本当の看護を求めて」私もそう思う。よい方向に向かうといいです。
- ・法律に基づいて大学が増えていったことがわかった。
- ・井部先生のお話を聞いて嬉しかった。今年の3月まで大病院で看護師をしていました。プログラム1～5がとても共感できた。
- ・マネジメントの大切さを再確認できた。
- ・看護大学の編入など「なるほど」と思える内容だった。先生の「看護のアジェンダ」を全て読んでみたいと思った。
- ・現状を認識できた。
- ・私立大学のマネジメントを学ぶことができよかった。
- ・基礎的な内容も含め、一から見直すことができた。その中にも革新的な内容もあり、目からウロコとなった。
- ・「幅広い進路の検討」について改めて考えさせられました。卒業時の進路だけでなく、さらにその先にも目を向けたいと思う。
- ・私立大学が目指すものの概要を知ることができた。教員としてどういう方向性を目指すのかのヒントをたくさんいただけた。
- ・1時間の間で要点をわかりやすく講演していただいた。
- ・看護のアジェンダ考察「本当の看護を求めて」は、学生に関わり看護の担い手（看護の仲間）を育てる視点となった。

- ・私立大学それぞれの建学の精神に基づき、独自の教育は何かということについて考えることの大切さを知った。オープンキャンパスを担当しているが、学生と一緒に大学がアピールできることを考えたり、学生がどのような大学にしたいか、あってほしいか聞いてみたいと思った。最後に話された看護のアジェンダの内容（最後の文）はとても感動する内容だった。
- ・看護のアジェンダ（163回）以前拝見させていただいた。また、内容について臨床の管理者と論議した。現場での問題（診療報酬、看護加算、時間外記録業務等）も多く考えられる機会だった。基礎と臨床のギャップと現実、今後も考えていきたい。
- ・わかりやすく理解できた。
- ・改めて、心を傾けて身にしみる時間だった。
- ・とても楽しく、看護系私立大学についての法律から歴史からいろいろな事まで分かりやすくご講演頂き、大変心に残った。
- ・そもそも基本となる内容を知ることができ大変よかった。
- ・教育の方法論的なものをもっとあればよかった。
- ・結果にコミットしないといけないと思った。
- ・私立大学の基礎を学んだ。
- ・大学の現状と根拠の部分が合致した。
- ・大学卒業後の進路が多様化しており、教員も様々なことに対応できる能力が求められていると思う。教授の自由を指定規則との兼ね合いでどうしていくか今後大学が生き残る上で重要なことだと思う。
- ・引き込まれるようにお話を聴いた。大学の役割や教員の役割については私立であることに特色があると感じた。自分が国公立で受けた教育ではあまり感じたことがなかったことも、私立であるが故に個性があると感じた。看護の学士入学が今まででなかったことが不思議だったが今回お話を伺えて納得した。

2. 講演2「看護系私立大学の教員になるとは」 講師：小山真理子（日本赤十字広島看護大学学長）

1) 講演の内容について

	人数	%
大変満足	74	52
満足	58	41
やや満足	8	6
不満足	1	1
合計	141	100



2) ご意見・ご感想

- ・講師の先生の振る舞い、お話の内容が教員のモデルになるものでとても勉強になった。初任者だけでなく“上司”という立場の方にも聞いていただきたいと思った。
- ・大学教員としての自覚すべき事項を知ることができてよかった。自分の仕事に希望が持てた。
- ・FDガイドラインを知ることができて良かった。大学に戻って情報の共有と活用をしていきたい。
- ・私立大学教員としての資質やFDなど、職務での仕事に反映させていけるような内容だった。上司にも相談したいと思う。
- ・大学教員に必要な心構えやヒントを教えてもらった。
- ・上司にも教えてもらっている内容が多かった。FDの資料は役立ちそう。
- ・教員経験が7年目だがこれまで自己流でやってきたことの評価が講話によってできたように思う。普段流していたこと等の大事さ重要性が理解できた。
- ・FDの有用性がよくわかった。他の教員の方々からご指導いただけることのありがたさを再認識

した。

- ・学生が弱者であることを忘れずにこれからも学生に関わっていききたい。学生は「カメレオン」は納得した。
- ・FDについてとてもよくわかった。大学の中にもありますが、教員としては一人一人の課題もあり、成長していかななくてはならないので、基本の柱となる目標を示していただきありがたいと思った。
- ・大学の教員に求められることを改めて考えなおす必要を覚えました。時間がもう少し長ければよかったと考えます。
- ・教育パラダイムも学習パラダイムも学生の目に見えないものほど大事。
- ・社会人基礎力の重要性について、初心に帰ったような気持ちになった。
- ・具体的に活用できるツールをいただき今後役立つと思う。
- ・私たちが何を大事にしなければいけないか、何をしなければいけないのか、とても分かりやすく聞け、頭に入ってきた。
- ・これまでの経験や学習の総復習ができた。学生を学ぶ人として、工夫していきたい。単位認定というパワーを持っていることを、常に意識し留意しながら自分の態度を見直したいと思う。
- ・学生にどのように向き合っていくのかについてわかった。また教育者としてどのように学び、学生に還元していくのかについて考えていきたい。
- ・学生を守ることが大切であること、倫理観など忙しさの中でも大切にしたいと思った。
- ・教員としての自分をどう育てるか？を常に心に抱きながら日々の仕事にまい進していきたいと思う。
- ・指導する立場にある教授、准教授にも受講していただきたい内容だった。
- ・上司とのアサーティブなコミュニケーションをとるにはどうしたらいいか悩んでいる。そのことで教員を辞めたいとも思っている。どうやって乗り越えたらいいのかわからない。そんな研修会があるといいと思う。
- ・大学に就職してから何をどうしたらよいかかわからない日々で、領域の壁の高さを実感し、戸惑うことばかりだったので、少し4月～8月までの経験とリンクして考えることのできる内容もあったのでよかった。
- ・教員の役割を何となく知っている程度であった。具体的に役割を教えていただけて今行っていることの意味付けができた。
- ・教員として必要なことがわかった。勉強すべきと実感した。
- ・教員とはどういうものかこの数か月悩んでいたことがクリアになった。とてもわかりやすかった。
- ・4月にこの内容を聞いたかった。
- ・表3の自己評価表は活用させていただきます。
- ・大学の教員としての役割や求められる資質など、自分が知りたかった内容を教えてもらうことができた。
- ・現任教育でも教育パラダイムの転換に直面していると実感していたので、大学教員となり、自分がまだまだ迷う部分はありますが身につけないといけない能力を明らかにすることができた。
- ・大学教員としての役割や求められる能力について初めて聞き、これまで中途半端に仕事と向き合っていたことに気付いた。心を入れ替えて頑張る。
- ・初めての方が対象だったのでもう少し具体性があるとよかったと思う。
- ・実践につながるような内容で、非常によかった。FDガイドラインの話をもっと聞いたかった。
- ・FDガイドライン等しっかり見直していきたい。
- ・臨床から教員となり、新人教員としての特別なプログラムがあったわけではなく、日々の生活に追われている。研究もできない。
- ・講演中の30秒の時間ご配慮ありがとうございました。学生の状態を察する日頃の先生の対応を学ぶことができた。
- ・FDガイドラインの活用をしていくこと、組織化、当大学へ活用できることアプローチしていき

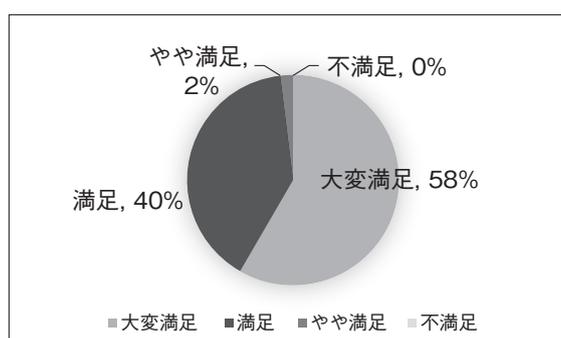
たいと思う。

- ・臨床を離れて、自分の役割に自信を失いかけていたが、意欲のわく内容だった。
- ・研修時間をもう少し長くしてほしい。詳しく学びたいと思った。
- ・実習指導に取り組みはじめた。本日の学びを心に留めておきたいと思う。
- ・FD ガイドラインを活用し、自己研鑽していきたく強く思った。
- ・教員に必要な資質、能力を言語化してほしい。目指すべき方向性を学んだ。
- ・基本的なところをわかりやすく説明していただいた。
- ・もっと積極的に研究をしていこうと思った。
- ・「社会人基礎力」が最近よく話題になっていると聞いていたが、先生が具体的に基礎ゼミで伝えてくると知り、学生に自覚させることが大切とわかった。私はずっと臨床だったので大学教員の基礎についてわかりやすく、広く教えていただき「どうあるべきか」が固まったように思う。
- ・略語表記から英記表記としていただく方が教育的だと思う。(FD の件) (グローバル化の社会に対応するにも) 小山先生のご講演とてもわかりやすく、大学の教員としての意識を改めて持った。
- ・現実的なお話しを、理解しやすく教えていただきありがとうございました。
- ・FD ガイドラインすぐ手にとれてよかった。学生の人権、これからも大切にしていきたいと思った時間になった。どう大事にしていくか方略も変化していくのだと思う。
- ・新人教員としての心構えなど少しわかった気がする。FD の仕組みやフォロー体制もよくわかった。
- ・「若手教員のための FD ガイドライン」「臨地実習における学習支援力」に関するチェックの 2 点が参考になった。
- ・学習パラダイム、学生と教員のパワーバランスに留意した関わり、FD ガイドラインなどこれから役に立つことをたくさん知ることができた。
- ・教育の方法論的なものももっとあればよかった。
- ・FD ガイドラインは参考にしたい。
- ・今年から教員になり不安でいっぱいです。先生が助手だったころのお話を聞き、私も少しずつ進んでいこうと思った。例えば実習指導案の具体例 etc があるととても助かった。
- ・役割はもちろん、建学の精神を教員に一貫した教育支援を組織の一員として行う必要性、教員としての研鑽の必要性を理解できた。
- ・社会の変化について、導入の部分で「20 世紀で求められなかったことが 21 世紀で求められている」と表現されていた。私の勉強不足もあるが、どう変化があったのかわかると理解しやすいと思った。
- ・FD ガイドラインは自大学でも共有していきたい。
- ・知らないことがたくさんあったので非常に興味深くお話を聴くことができた。学生が成果を身につけられるかはとても難しいと感じる。大学で学ぶレベルに至っていない学生たちへ「学士」にふさわしい「社会人としての基礎力を身につける」+「看護実践能力」をつけさせるのは難しい。教員として求められる能力は思っていたよりたくさんあるので 1 つ 1 つ積み重ねていきます。

3. グループワーク

1) グループワークについて

	人数	%
大変満足	62	58
満足	42	40
やや満足	2	2
不満足	0	0
合計	106	100



2) ご意見・ご感想

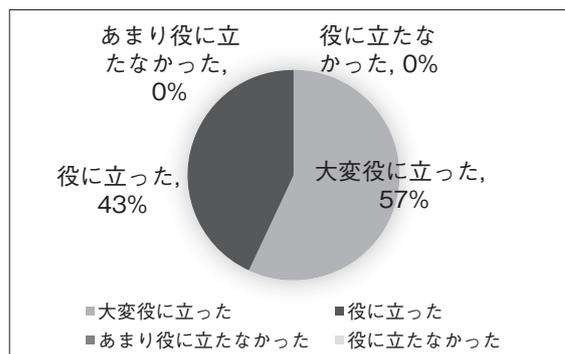
- ・最初はなかなか発言がなかったが全員が話してから、積極的な意見交換ができてよかった。
- ・他大学の先生方の思いや考えを知ることができて満足している。また、学びを再確認することができた。話が盛り上がったのでもう少し意見交換する時間があるとよい。
- ・同じ境遇の先生方と情報共有し、苦しみや「あるある」を分かち合え、とても勉強になった。心理的にも癒された。
- ・自分が日頃悩んでいた部分を他大学の教員も同じように感じていたことにホッとした。心の灯がともった。
- ・他校のネットワークができたように思え、心強く思う。このような機会をいただきありがとうございました。
- ・他の大学の新任教員の方のお話を聞いて楽しく面白かっただけでなく、大いに参考にしていきたいと考えた。
- ・様々な意見が聞けて良かった。
- ・腑に落ちた。
- ・いろいろな先生方の話が聞けてどこの大学も同じだとわかった。また、チャレンジしていきたい。
- ・1つの事例としても意見を出し合うことで今後自分が〇〇へ出たときへの対処を学び、考えることができた。
- ・他大学の先生方と同じような悩みのあることもわかり安心し、また明日から頑張ろうと思った。
- ・様々な先生の経験、気づき、迷いを共有することで自分の看護観や教育観を振り返ることができた。
- ・自分の課題を言語化することができた。具体的な行為も考えることができた。
- ・様々なグループの方のご意見を聞かせていただき大変勉強になった。
- ・他大学の現状、同じ新任教員の悩みを共有できた。皆、悩みながら成長しており、私も継続的に学ぼうと思った。
- ・他大学の教員とも意見交換できてよかった。
- ・同じ意見のお話や、様々な経験を聞かせていただいた。勉強になった。
- ・いろいろな大学の先生方とコミュニケーションがとれたこと、大学教育についてご意見をうかがうことができてよかった。
- ・同じようなキャリア、経験の先生と話ができて共感できる部分があり、楽しかった。
- ・様々な意見を聞くことができ、刺激を受けた。
- ・いろんな意見をうかがうことができた。(同じ内容から人によって意見が違うので新しい発見につながった。)
- ・ある程度細かいテーマがあるとよかった。
- ・多様な意見を聞けて良かった。活力を得た。
- ・グループ内で様々な教員の方々と意見を交換できたことが良かった。
- ・いろんな方々のいろいろなご意見が聞けて有意義だった。

- ・職位は違うが新任教員の立場で、様々な情報交換や話から学びを深めることができた。
- ・グループワーク、他のグループの意見がとても共感できたり、勉強になるものだった。
- ・講演を受けて他大学の先生方と話し合いができ、発表をきくことができた。その中で難しいけど考えづけること、前進し続ける大切さに気付いた。
- ・同じ環境にある他大学の先生方と学生教育について話をするのができ、有意義な時間となった。
- ・私以外は4月から教員になった人が多かったので初めて教員になった時の気持ちを思い出し、新鮮だった。
- ・他の大学の新任の先生方がどのようにされているのかお聞きすることができ、とても勉強になった。
- ・他の大学の状況がわかってとてもよかった。
- ・教員になってずっとモヤモヤと思っていたことを話すことができて良かった。
- ・異なる大学の方々とお話ができて自分が悩んでいることが共通の悩みであることに気が付いた。
- ・大学のカラー、色々な考え方があるのだと思った。
- ・色々な領域の先生方のお話をうかがい、とても勉強になった。輪が広がったようで、このような機会をいただきましてありがとうございました。
- ・同じ立場同士の教員で話すことができて悩みを共有することができて良かった。
- ・同じような立場の先生方のお話が聞けて、大変参考になったと同時にリフレッシュできた。
- ・いろいろな情報交換ができてためになった。
- ・同じような悩みを他の先生方も持っているとわかり、少し心強く感じた。いろいろな意見が聞けてよかった。
- ・同じ悩みや他校の状態など知ることができ、楽しかった。日頃疑問に思っていることに対し、他の先生が具体的に実施してうまくいったことを教えてもらい勉強になった。
- ・色々な立場、環境があると知るだけでうれしかった。
- ・他大学の先生方と意見交換ができて良かった。
- ・似たような先生方のお話が聞けてホッとした。そして役立てられそうなお話も聞けて元気が出た。
- ・4月から教員となったメンバー同士が今考えること悩んでいることを聞くことができた。
- ・同じような立場で悩み、対応、共有できとても元気になった。できないではなくチャレンジする誠意
- ・色々な教員の思いも聞け学べた。
- ・同じような環境で悩んでいる方々と話をするので、前向きな気持ちになった。
- ・交流の場となり大変楽しく意見交換できた。
- ・様々な大学の先生と意見が交換でき自分で考えつかないアイデアや考え、経験が聞けて有意義に過ごせた。
- ・他大学の先生方の話をきくいい機会となった。共有することができてよかった。
- ・グループワークで意見交換を行うことで、学生の教育について同じことで悩みを抱えていることがわかった。その分、解決方法を共に考えることも可能だった。もう少し時間がほしかった。若しくは、こういった研修の機会があると良いと思った。
- ・いろいろな先生の意見を聞けて参考になった。
- ・色々なお話が聴けてとてもよかった。また、小山先生のフォローの話も本当に印象深かった。それでお給料を貰っているというところ。学生はお金を払って来ている。私たちはそのお金で食べている。それは今までわかっていたつもりできちんと自分の中に落とし込めていなかったと反省した。いろいろな大学のいろいろな背景のいろいろな方々と話ができリフレッシュできた。名刺が大切なことを初めて知った。私には社会人基礎力はなかったみたい。

4. 研修会全体

1) 研修会全体について

	人数	%
大変役に立った	77	57
役に立った	58	43
あまり役に立たなかった	0	0
役に立たなかった	0	0
合計	135	100



2) ご意見・ご感想

- ・自分と同じ立場の方々と交流できてよかった。
- ・モチベーションが下がってた時なので気合を入れ直してもらったようで良かった。どうしてもないパワハラ上司がいますが負けずに頑張ろうと思った。
- ・勉強させていただいた内容はもちろんだが、とても楽しくグループワークができた。
- ・他大学の先生方と交流する機会はとても刺激を受けた。
- ・右も左も分からなかったので、先生方のお話は大変参考になった。他校の先生とも分かり合え、大学の枠外での考え方も教員人生の参考になった。
- ・このような研修会をまた行ってほしい。またさらにステップアップしたものを研修会として行ってほしい。
- ・教員経験の長い先生にも教育が必要だと思った。
- ・他大学の先生と名刺交換できてよかった。
- ・今回講演を聞いて、自分が何もわかっていない、何もできていないと思い不安になったが、最後の小山先生の一言でそれを受け入れることの大切さを知り、少し前に進もうと思えた。
- ・新任教育に関するFDについては是非、大学側のトップへの研修の中でも伝えてほしい。
- ・他大学のお話を聞いて悩んだり困ったりしているのは自分だけでないことがわかった。
- ・研修中にPCを持ち込み、仕事している人を見かけた。教員は多忙であり、時間に追われているのもわかるが、研修中にまで個人の仕事をもち込むことに教員としてどうなのか疑問に思った。時間を管理することも、教員に求められる重要な資質と私は考える。
- ・新たな発見ができた。
- ・長く“大学”という特殊な環境にいる先生方の当たり前の感覚がやっぱり違うんだなと思った。上の職位にある先生に何も言わない現実は解散でもしない限り難しいと思った。
- ・今後につながる機会をもった。(自分が今やるべきことに気づけた。)
- ・とても効率的な研修会だった。新任だけでなく2年目3年目での悩みも出てくると思うので継続して参加したい。
- ・とてもありがたい企画だと思った。
- ・FDガイドラインをいただけて、私がこれから身につけることの整理ができた。他学の先生と交流できて勉強になった。
- ・教育をするということがまだまだどういうことか分かっていない中で研修会を受けさせていただき、自分が教員として歩いていく道が少し見えた気がした。
- ・私学の看護系教員の現状を知ることができた。初めての先生が多かったのもっと内容を臨床上がりのNSの意識の変革をふまえた内容で組まれるといいのではないかと思った。
- ・すぐに役立つ内容でありがたかった。
- ・より良い教育について学べる場が欲しいとは思いましたが、学内の研修会や他の研修会を利用していきたいと思う。大変いい研修会だった。
- ・この様な研修を年に数回してほしい。

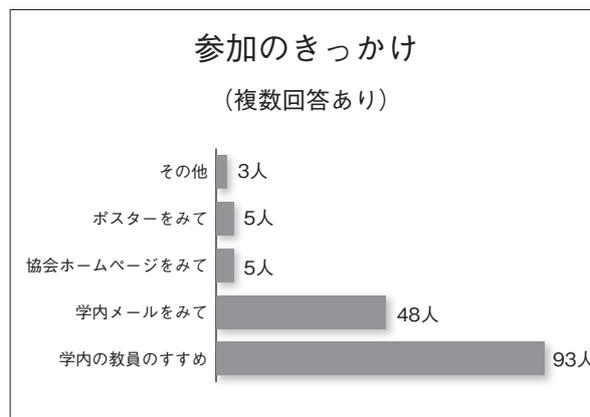
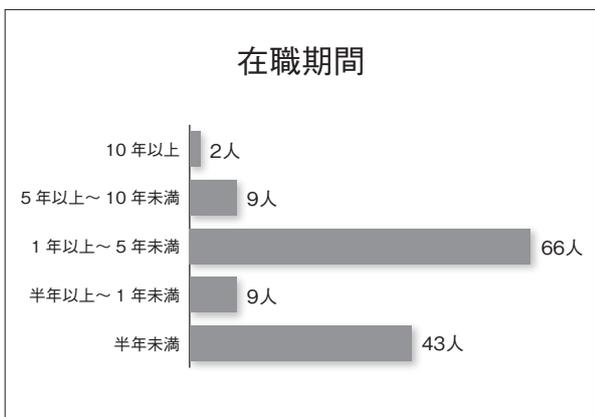
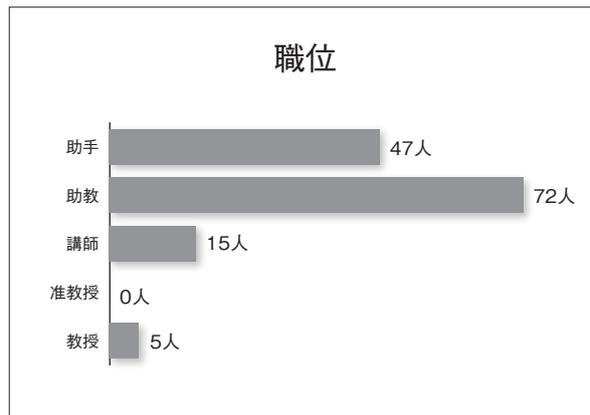
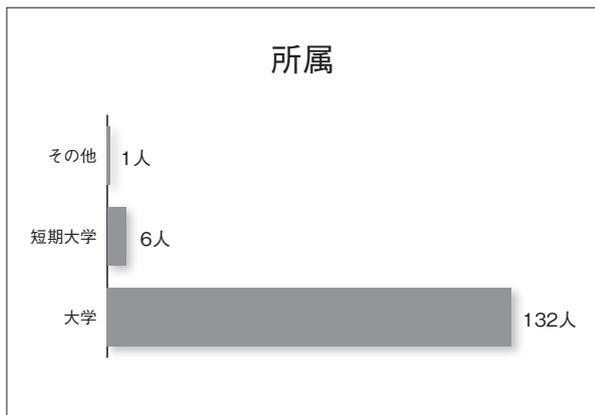
- ・FDについてなど知らないことがたくさんあったことが分かった。またこの様な会があると良いと思う。
- ・自身の教育に対する考えに気付くことができた。今後生かしていけそうだと思う。
- ・先生方のお話がとても分かりやすく、また記憶に残るものでよかった。
- ・本日参加する前は、一般的な教育ということの内容なのかと思っていたのですが、自分（臨床から初めて教育の現場に入った）が臨床で悩んでいたことや、問題を感じていたことを教育の場でどう反映させるか、研究にどんな意義をもたせるかについて方向性を見いだせたように思う。「看護師に向いていない」という言葉を安易に使いがちな管理者や教育者でないよう学生の可能性を一緒に探していこうと思う。
- ・部屋の環境がよくなかった（暑い、寒い、狭いなど）どこかの大学で実施してほしい。教育環境を見て学ぶことも必要かと思う。
- ・共有する場があってエネルギーになる。
- ・教員として色々悩むことがあったため、今回の研修の案内をみた時にすぐに「行きたい」と思った。参加して本当に良かった。
- ・ご経験のある先生方のエールを聞いて勇気づけられた。
- ・自己の課題が明確になった。
- ・知識としてよく理解していないことがよくわかった。とにかく初めてで、でも何を聞いて良いのかわからない部分なのでとてもためになった。
- ・サービスとして教育を考えることは特に生き残りを考える私大にとっては大切なことだと感じた。国公立大のように学生を選択できるところは教員がすごく時間をさかなくても、学生が自分で学んで身につけていくが、選択できなかった大学はすごく時間をかけて何も身につけていなかったり、ある程度学生に力がないと学習することはむずかしいのではないかと思った。
- ・グループワークの発表を聞き、教員自身が自分を大切にせず学生を守ると言う考え方を組織人として考えなおした方がいい。自分の働き方が他者に影響することを若い先生方は知ってほしい。

5. 今後、本協会「大学における教育に関する事業」で希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所など

- ・時期は今の時期でよい。場所は東京・中部・関西のアクセスのよい所がよい。
- ・2,3,4年目向けの何かしらの集める機会、話し合える機会があれば有意義かと思う。
- ・次回の質的研究も参加したい。
- ・教育目標に関するテーマ
- ・一度だけではなく何度かこのような場を設けていただけるとありがたい。今回お知り合いになった先生とのコミュニケーションを深めたい。
- ・実習の時期とあまりかぶらない時期なら助かる。また、実習や授業の兼ね合いから平日は避けてほしい。また、大阪や西日本でやっていただけると助かる。
- ・教育原理、哲学、アクティブラーニングとは
- ・成人教育に関することを学びたい。
- ・専門領域をこえ、看護系大学の教員の役割を考える機会がほしい。複数回シリーズの新任研修、経験や職位に応じた研修の機会があるとよい。
- ・新人教員育成のためのシステム作りを教授や学部長に研修をお願いしたいと考える。
- ・専門学校を卒業して、大学・大学院を修了した教員は、教育学を学んでいないことにコンプレックスを持っている。各地にその様な教員がいると思うので、日本全国でこの様な研修会を開催してほしい。
- ・全国で開催されると良いと思う。できれば定期的にいろいろなコースを作って教員同士が意見交換できる機会を作ってほしいと思った。
- ・臨床経験の少ない教員向けの研修会があるとよい。
- ・新任教員の講習は続けてほしい。上司である先生（教授、准教授）への同じような講習があるといい。

- ・年に1回ではなく、定期的に開催してほしい。
- ・カリキュラム改正のことについて研修会があると嬉しい。
- ・学部の責任者にFDについての研修会をしてはどうか。
- ・是非シリーズで開催してほしい。
- ・「臨床家」と「教育者」看護師として病院勤務しかいたことがない人がどのように看護系大学生に携わるべきか。
- ・「教授の教室管理と人材育成」を教えてください。
- ・地区別講習会もいいと思う。
- ・授業案（計画）の作成に関することなどの研修があれば参加したい。
- ・オープンキャンパスの時期であったため、開催時期はずらしていただけるとありがたい。
- ・時期はちょうどよかった。（前期が終わって一段落したところだった。）
- ・オープンキャンパスと重なっていますので、時期をずらしてほしい。
- ・3月、9月にやってほしい。実習評価、シラバスの検討、特別な支援が必要な学生への対応などを希望する。
- ・アクセスが良い場所で参加しやすかった。
- ・ライティングに関する研修会
- ・2年での大学教育について
- ・同じテーマで良いので、関東と関西で分けて開催してほしい。時期は実習などない時期（学生の夏休み）でちょうどいいと思う。
- ・e-ラーニングにしていれば日程、場所の心配がなくて良い。ディスカッションやグループワークはスカイプでできると良い。
- ・教育が変遷しているので新任だけでなく、昔の教育の方々も定期的に受けてもらえるようにしてほしい。新任は窮屈すぎる。
- ・実習指針、ハラスメントについて
- ・心理学に基づいた学習支援、自身のない学生、学習方略がわからない学生への指導ポイント
- ・学習パラダイムを意識して授業を組み立てて実践をされている先生の取り組みについて学ぶようなテーマを希望する。
- ・教育方法を学びたい。
- ・何かもっと横のつながりを持てるようなピアサポート的なものがあれば良いのにと思っている。
- ・新人以降の研修会もぜひお願いしたい。
- ・新任教員の研修を2日間くらいにして、より内容を深めたい。
- ・各大学新任の先生は少ないと思いますのでこの様な新任教員のため研修が開かれると助かる。
- ・始発の飛行機でも間に合ったので助かった。
- ・定期的に他大学の先生と情報共有ができる場が欲しい。
- ・若手向けに今回のを1回目とし、継続シリーズでしてほしい。
- ・学習設計について今学んでいるのですが、どうしても教育学に特化しているものが多い。看護学特有の学習設計の提案があればご教授願いたい。
- ・教員として成長発達できる教育システムを作ってほしい。学生との向き合い方など顧客としての学生を意識した教員が少ないように思う。
- ・今回と同じメンバーでフォローアップ研修がしたい。1年後の成果を聞きたい。

6. 参加者について



一般社団法人日本私立看護系大学協会
 「看護実習指導と評価—教員の教育力向上を目指して—」アンケート結果

参加者数：128人 参加校数：67校
 アンケート回答者数：112人（回答率：87.5%）

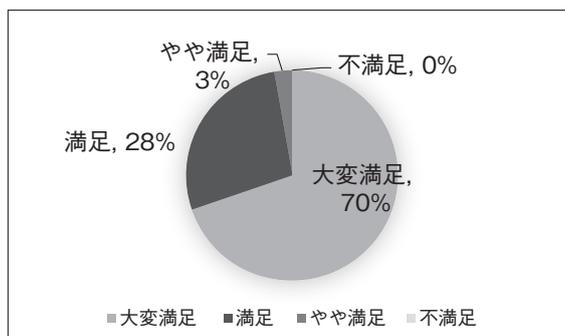
日時：2019年2月3日（日）10:00～16:00

場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

1. 講演1「学生が主体的に学習を行うための看護学実習指導」

1) 講演の内容について

	人数	%
大変満足	76	70%
満足	30	28%
やや満足	3	3%
不満足	0	0%
合計	109	100%



2) ご意見、感想など

- ・具体例を交えながらの講演であったため、実際の場面とつなげて考えることができ、実用的な内容でした。
- ・実際に経験した実習指導の問題について、具体的な考え方、対応方法を知ることができ、目の前が明るくなったようであった。次の実習指導に取り入れていこうと思う。
- ・何が重要かというポイントが明確でわかりやすく聞かせていただきました。
- ・分かりやすく、実習で活用できる考え方の気づきがありました。
- ・教育に携わりながら、実習とその評価に関する研究に取り組んでいます。そのため、今回のテーマは研究にすぐに還元できるような示唆を得られて非常に良かったです。
- ・教育歴は長くないですが、提示していただいた事例のような学生に出会ったことがあります。その時の指導方法について考えさせられました。学生と一緒に学んでいく姿勢を大切にしたいと思います。
- ・現在実習中なので、本日の学びを明日以降活かしていきたいです。
- ・本来、看護師になるべく入学してきた学生なので主体的に学習できる環境を整えていくべきなのですが、させられ学習になっているところがあり、それを何とか改善したいと考える。
- ・レフレの会で様子や、そこでどのように省察的実践家としての教員に成長していかれるのか、といった内容も是非聞いてみたいと思いました。
- ・日常実践し、考えていることの証明を得た感じがした。
- ・とても分かりやすく学びになりました。
- ・大学で勤務し始めたところなので、悩む所が多かったがすごく励みになった。又、入りたての私でもわかる内容で話して下さったのでとても分かりやすかったです。
- ・書籍、理論の紹介も含め今後もう少し深く学びたいと思えました。
- ・実習指導する中で、色々な思いがあり、そこも汲んで下さり又、指導のコツも学ぶことができました。
- ・自分自身のことを振り返るよい機会となりました。
- ・とても勉強になり、実践に繋げたいと思いました。しかし、90分ではもの足りず未消化な感じが残り、もっと時間をかけて知りたいと思いました。
- ・省察することは学生と教員の相互作用が大切である。学生のやる気を育てるためには教員として、忍耐、学生を信じるのが大切である。

- ・実習時の自分の学生との関わり方、特にうまくいかなかった時の関わり方を振り返る良い機会になった。
- ・経験型実習教育について安酸先生の著書を参考にして、学生が経験から学ぶ力を育てることの教育的支援できる力をつけたいと取り組んでおります。又、研究のテーマにもしています。直接お話しを聞いてよかったです。
- ・教え込むのではなく学生の学びを支えられるような実習指導をしていくべきと感覚的に思った。リフレクションの考え方も日々自分が考えていたことを後押ししてもらえた。
- ・できなかった学生にどの様に問いかけるのがよいか、よく分かりました。実習では学生5名を担当するため基礎の場合は特に時間がかかるので大変ですが参考になりました。
- ・これでいいのかと思っていた所にアドバイスをいただきました。
- ・学生への関わりを思い出し、教育の方法を改めて考えさせられました。
- ・文献や専門家の考え方を基に説明されて分かりやすく、自分の体験の確認や理解につながりました。
- ・先生に共鳴しています。
- ・教員としての自分は、どのようにあればよいか、自分に対しての省察が必要と感じた。
- ・事例なども分かりやすく、明日からの教育に活かせるようです。
- ・分かりやすく、今後の指導に活かせると感じた。特に事例に沿った指導方法が具体的でよかった。
- ・教員になって9年経ちます。学生が経験していることを一緒に振り返り、学生自身が答えを見つけて欲しいと、まさにオープンリードを行っているのですが、一方で教員経験の中で私の中に出て来上がっている模範回答、回答のモデルというのがある、無意識に私の頭で解決してしまっていることに気づかされました。
- ・基本的な考え方、関わり方の確認の機会となりました。
- ・具体的な事例がありわかりやすかった。教員1年目、悩みつつ進めているので参加して良かった。
- ・実習指導に日々苦戦しておりますが、このような講演を拝聴するのは初めてで、とても感銘を受けました。他の教員の指導法に疑問を感じていましたが、適切に指導・助言できなく困っていましたが、明日から説明できそうです。安酸先生の著書も拝読して努力してまいります。
- ・自分の経験を想起しながら拝聴できました。引き込まれる講演でした。
- ・リフレクションをこれまでもやっていたが、これでいいのだろうか試行錯誤だったのですが、やっていることに自信が持てた。学生の強みを上っ面ではなく、心から伝える努力をしたいと思えます。
- ・タイムリーに学生とともに振り返りができればいいなと思います。複数の学生を同時に指導している、学生それぞれの一番いいタイミングで対応するのが難しいと感じました。
- ・具体的な事例があって、今後学生にどう関わればよいか実践できそう。
- ・テキストは買って読んでいます。実際の話が聞いてよかったです。
- ・学生の関わり方について、大変学習できた。
- ・教育は大変奥が深いと感じます。90分あっという間でした。理論と実際のわかりやす事例を示していただき分かりやすかったです。教える立場としての自分を高めなければと感じました。著書をもう一度読み返したいです。
- ・実習に役立てていきたいと思えます。
- ・20年以上ぶりにお話をうかがいました。相変わらず雰囲気、話し方など、存在、安酸先生のありようがすてきです。まねさせていただきます。ありがとうございました。
- ・事例も含めイメージしやすかった。理論も紹介されており、学習していきたいと思った。
- ・自分のこれまでの実習指導を振り返る機会となった。
- ・学生の反応が目に見え、発問の大切さを実感しました。
- ・自分でも感覚的に理解し、実践してきたこと（していること）を分かりやすく言語化、説明していただけて腑に落ちました。
- ・実体験を含めた講義で分かりやすかった。学生の思いに寄り添った実習指導が必要であると実感

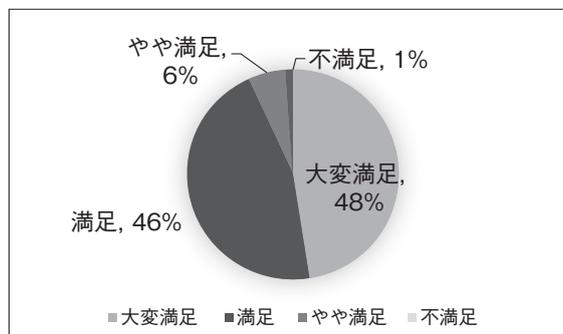
したが、反面難しさも感じた。

- ・ 教員としての価値観を考えさせられました。Theory in practice. 忘れずに学生に学生に対応していきたいと思います。

2. 講演2「教員と学生に看護学実習評価の共有」

1) 講演の内容について

	人数	%
大変満足	49	48%
満足	47	46%
やや満足	6	6%
不満足	1	1%
合計	103	100%



2) ご意見、感想など

- ・ 長期的なルーブリックなど横断的評価について知ることができるとともに基礎的内容も含まれていたため理解しやすかったです。
- ・ 丁度ルーブリック理論を理解し、活用してみたいと考えていたので、ナイスタイミングでした。そして分かりやすかったです。ただ、ルーブリックの説明に入るまでの部分はおおむね知っている部分だったのであまり必要なかったかなと思いました。
- ・ 実際の例などあり、分かりやすく聞かせていただきました。また、必要性もよくわかりました。
- ・ 教員経験が短いため知識不足を感じました。しかし、自分自身の進め方など学ぶことができました。
- ・ 評価について、改めて分かりやすく整理された内容かつ、具体例を示していただきながら理解できたと思います。自分の分野の実習目標の評価は曖昧すぎて、教員による評価視点が違うことが課題なので再考しなければと強く思いました。
- ・ 評価の基準を統一しておくことで、教員と学生のズレが生じにくいとのことだったので、ズレが生じないためにも学生とコミュニケーションをとりながら実習したいと思います。
- ・ レポートにもルーブリックを用いて学生に提示することが大事であると学び、学内に戻った際に、他の先生方へも伝えていきたいと思いました。
- ・ 実習評価の統一化は、学生にとっても大事かと考えました。
- ・ ルーブリックを実際に活用していますが、質問にもあった妥当性の担保が気になりました。実際に今科研で明らかになった点を今後知りたいと思いました。
- ・ ルーブリックを実践してみたい。
- ・ ルーブリックについて知ることができよかったです。私も使ってみたいと思いました。
- ・ 実習の評価において領域内で話し合えることは良いが統合実習における評価について疑問があったので今日の講演を聞かせていただき大学の課題としていることが理解できた。
- ・ 質問に対する先生の返答について看護課程のルーブリックで、情報収集とアセスメントを別と考えて評価することもひとつの方法と説明がありました。妥当性ということと関連することになると思いますが、実践の場ではそうであってはならないのでは？と考えます。実際に働く場合、正しく情報をとれないと適切なケアができないと考えます。
- ・ ルーブリックは、評価のずれ防止とのみ理解していましたが。学生にも示すことで学習の向上に繋がると学ぶことができました。
- ・ 実習評価に関して見直す必要性を考えていたところなので大変参考になりました。
- ・ とても必要なことだと思います。現在取り組んでいるところなので参考になりました。
- ・ ルーブリックの有効性を改めて学んだ。学生に示すことで、学習意欲の向上に結び付くと感じた。

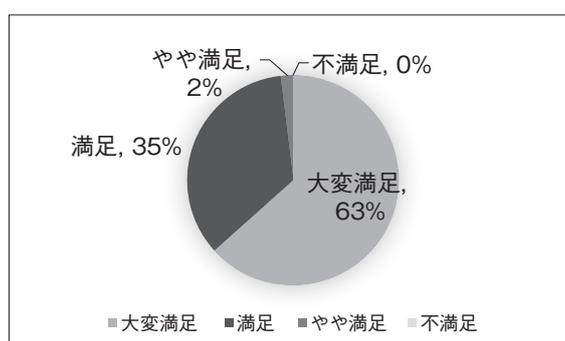
- ・現在ルーブリック評価を試みているため非常に参考になりました。また、教員間での評価のブレについてはまだまだ課題があったので、内容の再考、ルーブリックについての教員間の周知等が必要だということが再確認できた。
- ・難しい内容だったのでくわしく再度資料をみたいと思います。各教員による評価について、同じ近似したものにするのに、評価基準を細かくし、学生に提示していくことが必要と感じた。
- ・北川先生の著書である看護実践に役立つルーブリックで学習しています。難しく感じていましたが、本日の講義をきいて、なぜ今ルーブリックといわれているのかよく分かりました。評価のためだけでなく、学生のやる気、主体性の学習をたすけることになるとよく理解できたので、活用していけるようになりたいと思いました。
- ・内容がもりだくさん。基本的にルーブリックのところの知識が足りないまま聞いたせいかもしれない（反省）エピソードもまじえての講義だと聴きやすかったと思う。
- ・実習時の評価にいつも悩んでいました。一つのツールとしてルーブリック利用できればと思う一方頭に入れ評価する時間がかかるのではないかと思いました。
- ・評価についてもっと具体的に説明があると分かりやすかった。
- ・より必要性を強く感じました。又、評価をつける側として、やはりルーブリックのようなものは評価の公平性に必要と思いました。
- ・ルーブリックの具体的なお話が聞けました。実際に活用するためには綿密な検討が必要だと感じました。
- ・ルーブリックについて分からないことがあったが分かりやすく説明された。
- ・同領域の中でのルーブリック評価は評価内容の妥当性の議論がしやすいし、一致しやすいが統合実習など他領域に及ぶとその評価指標を一致させることに困難さを感じた。
- ・ペースが早く理解が追い付かなかった。ルーブリックの説明は分かりやすかった。来年度から今回の学びを活用したい。
- ・評価が学習の促進となる、授業改善につながる、ということがとても理解できました。授業の評価を経験 50%、看護過程 20%、その他のレポート 30%としています。レポートは 6 題 × 5 点としていて、評価基準（内容、体裁）を文書でも示しています。私自身は評価しやすく、また、学生にも分かりやすい評価方法と思っていますが、学生は平均点取ればよい、5 点は目指さない傾向があるように思います。元々学習意欲が高い学生であれば、評価は学習の促進になると思うのですが、そうでない学生は評価以前の指導、教授に問題があるのでしょうか？
- ・ルーブリック評価について具体例を提示していただき、理解が深まりました。自校での学習（実習・演習）評価に活かしたいと思います。
- ・具体的な作り方についてもっと聞きたい。
- ・ルーブリックとても参考になりました。教授に聞いてもらいたいです。ICE ルーブリックもう少し知りたい。
- ・難しい内容を分かりやすくご説明していただきました。本学の取り組みはまだまだこれからですが、前向きに努力していきたいと思います。
- ・実習では受け持ち患者の状態の影響を受けやすいと感じます。Pt 条件が異なる状況の中で、学生の評価をすることに困難を感じるがありますが、今後はルーブリック評価を用いて評価してみようと思いました。
- ・ルーブリックは学生が学んでいく時の目標であり、学習の確認にもなると思った。ただ基準づくりにかかる労力が時間が目の前の業務を圧迫するので苦しい現状でもありジレンマです。
- ・ルーブリックには既に取り組み、事業の初期、中期、最終と 3 段階で評価させている。意見・評価に着目し、事業改善につなげていきたい。ICE ルーブリックも大変興味を持ってました。
- ・具体的な説明でよく理解できた。実習では最後に共有する日程の確保が難しい。どの日程でフィードバックすればよいか運用に困っています。
- ・評価に関し大変参考になりました。大学に持ち帰り教員間で共有するとともに検討していきたいと思います。

- ・スライド42がとても参考になりました。(ディプロマポリシーの例も)日統研の書籍を持っていますがセミナーにも出てみたいと思いました。
- ・ループリックは評価ツールとして有益であることがわかった。ループリックを作成することが大変だと思った。著書を読んでみたいと思った。
- ・評価の重要性が分かった。
- ・具体的で分かりやすかったです。
- ・理解できるが、使いこなすのは思うほど簡単ではないと思った。
- ・システム化することの大切さは理解できたが実践することの難しさも感じた。
- ・学科内FDで、評価基準の検討を行っています。本日の学びは目からうろこで、学生にとっての「主体性のある学びにつながる」という気付です。レポートや実習という評価について大変学び多い機会となりました。今までの自分を反省しつつ、今後を活かしたいと思います。

3. グループワーク

1) グループワークについて

	人数	%
大変満足	33	63%
満足	18	35%
やや満足	1	2%
不満足	0	0%
合計	52	100%



2) ご意見、感想など

- ・他大学教員との情報交換、ディスカッションにより理解が深まるとともに思考を広げる機会となりました。大変有意義でした。
- ・様々な意見を聴くことができました。実習に対する考え方や困難に感じていることを共有できた。自分の指導にも活かせることがたくさんあるため活かしていきたい。
- ・実習評価の統一化に対してもハードルの高さを知ることができました。
- ・教員同士、課題を共有できてよかったです。
- ・それぞれの思いを交換し充実していた。
- ・他の参加者の現状を話せて、有意義な時間でした。
- ・いろんな意見がきけて勉強になりました。
- ・共有でき良かったです。
- ・色々な意見をきくことができて良かった。
- ・ディスカッションのテーマを決めてもよかったのではと思います。
- ・職位(立場)の近い方々とのグループワークは学びになりました。ありがとうございました。
- ・同じ様な悩みを全ての教員が感じており情報共有ができました。
- ・いろいろな大学の先生と話せてとても参考になりました。
- ・いろいろな意見が聞けて良かった。
- ・いろいろな意見交換ができ、他の大学のことも知ることができた。
- ・教育で大切にしたいことを共有できてよかったです。
- ・活発に話せた。発表を通して学べた。
- ・同じ悩みが共有でき発表の場で今後の教育に役に立った。
- ・取り組むべき課題の整理ができた。
- ・皆さんとの話を通して理解を深められました。
- ・自分が普段感じていたことは、他の先生方も同じように悩んでいたことが分かり、共に考えてい

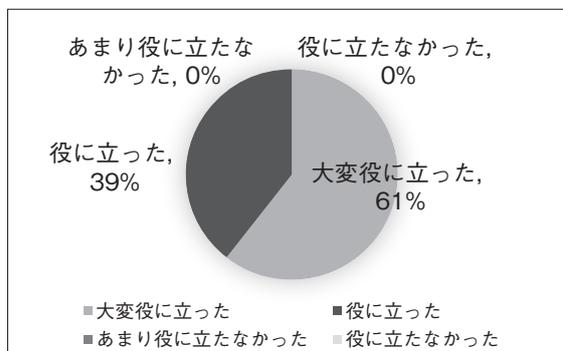
くことが必要だと思いました。

- ・様々な現状、アイデアを伺い、刺激も受けて、とても参考になった。
- ・他大学の先生と同じ悩みや目標を話し合えてとても楽しかったです。励みになりました。

4. 研修会全体

1) 研修会全体について

	人数	%
大変役に立った	63	61%
役に立った	41	39%
あまり役に立たなかった	0	0%
役に立たなかった	0	0%
合計	104	100%



2) ご意見、感想など

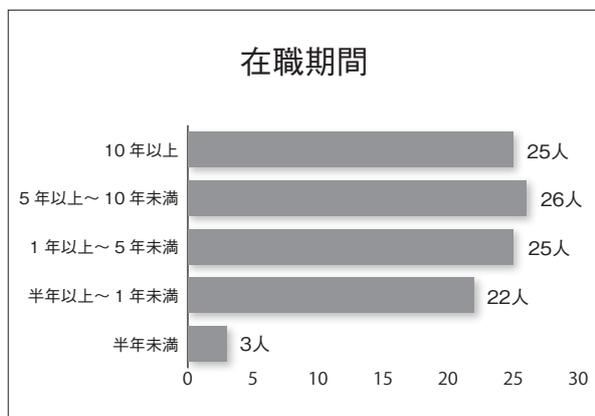
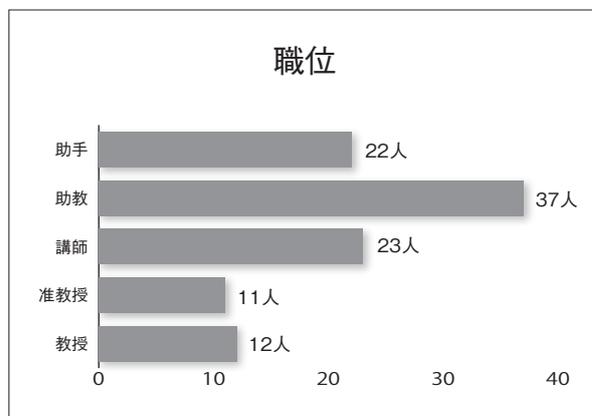
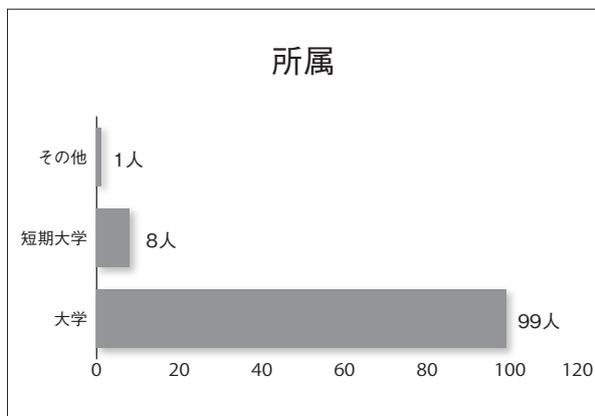
- ・今後役に立てていきたい。
- ・看護学生を取り巻く環境の変化や試みを学ぶことができたので大いに参考になりました。
- ・現状で抱えている問題解決の方法が見いだせた。
- ・今回の学びを活かしていきたいと思います。
- ・対象のレベルを指定してほしかった。教員としての経験が短い教員対象なのか、ある程度経験のある教員なのか、助手の先生方には難しかったと思います。
- ・他大学の情報共有により、幅広い学びができました。先生方の講演も活かせるよう大学に持ち帰りたいと思います。
- ・大変勉強になりました。
- ・大学での教育に日が浅いので、内容がマッチしていた。
- ・非常にためになりました。
- ・ルーブリックについてもう少し学び、ぜひ活用したい。
- ・教育目標、ディプロマポリシーに関する研修を希望します。本学ではここが明確ではなく、どのような学生を育成し、卒業してほしいのかが分からない…
- ・ルーブリックについて分かりやすい講義だった。
- ・実習評価について興味がありました。とくに臨地実習指導者との評価の共有に悩むことがあります。→説明して何とかありますが…
- ・自分たちが取り組んでいる方向性は間違っていないという確信に繋がりました。学生とともにもっと成長していきたいと思います。
- ・実習に関することは常に悩みがある。
- ・今年度初めて教員となり、学生に直接指導するだけでなく、各実習指導者の視点からの学生の評価も受け取る立場になった。学生をどのように支援、指導し、評価していくべきかモヤモヤしていた気持ちが晴れた。今度は客観的に評価していけると思った。
- ・講義も分かりやすく1つずつ自分の考え、行動に含ませていきたいです。

5. 今後、本協会「大学における教育に関する事業」で希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所など

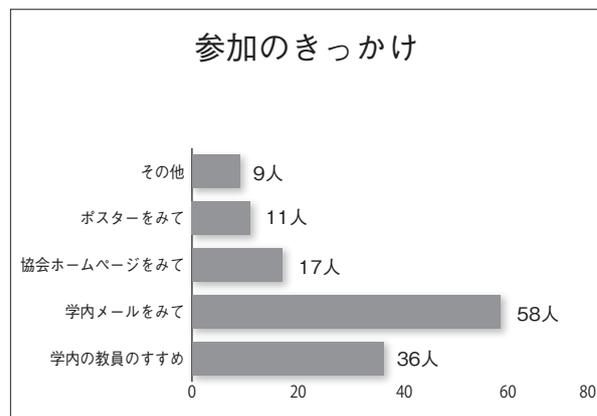
- ・一番前の席は受講者のための席にして下さい。もし空席を気にするのならば大学別に指定席にしても良いと思います。
- ・時期は実習のある時期を外していただければ助かる。場所は関西でお願いできれば助かる。
- ・カリキュラムの考え方等
- ・アクティブラーニング

- ・ 臨地実習などとともに教育を考えていくにはどうしたらよいかといったことについて
- ・ 病院、施設の実習指導者と教員との連携に関する事など
- ・ 発達障害を持つ学生に対する関わりなどをテーマとした研修会もしてほしいです。
- ・ 実習が落ち着く2月中旬～3月中旬
- ・ 本日の講演内容を臨床の方たちにもお伝えしたいと思いました。臨床の人も参加できる会があるといいなと思いました。
- ・ 実習指導とあわせて実習につながる事業計画などの内容も検討していただきたい。
- ・ ①効果的な実習方法について
- ・ ②急性期看護（援助論）で看護診断の活用は必要か？又活用方法の教授法について
- ・ ③臨床判断モデルについて
- ・ 今回同様に、実習指導に関するテーマを今後もお願いしたいと思います。年に2回くらい開催していただいたり、最寄りの中部地方や関西でも開催していただけると同僚たちも多数参加させていただきますので、ご検討いただけましたら幸いです。又、臨床指導者との調整についてもテーマ設定していただければ幸いです。
- ・ 土曜日開催がよいです。
- ・ 学力不足の学生をどう育てるか、高校までの学力を入学後どの程度学ばせるか。
- ・ 最近の話題について協会のため参加費無料なのはいい
- ・ 支援が必要な学生への関わり方など、日々の教育に直接つながるテーマの研修を行ってほしいです。
- ・ 東京だけでなく地方での開催を希望します。
- ・ 看護記録の具体的な指導法について
- ・ 8月、3月末に開催を希望します。
- ・ 発問の方法、仕方
- ・ 2月は入試があるので、2月下旬～3月上旬が希望です。

6. 参加者について



7. 研修会への参加のきっかけ



2. 研究活動委員会

1. 趣旨

- ①教員による研究費獲得の向上、学術研究の大学内環境や条件を向上するための方策の調査研究
- ②研究助成と研究ネットワークづくり
- ③研究に関するセミナー、研修会等の実施
- ④上記①～③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 野並 葉子（神戸女子大学）
- 島袋 香子（北里大学）
- 高見沢 恵美子（関西国際大学）
- 堀内 ふき（佐久大学）

3. 活動報告

【学術研究および学術研究体制に関する事業】

①研究セミナー（東京）

2018年9月15日（土）10：00～16：00 アルカディア市ヶ谷（私学会館）

第1部

2018年度研究助成の応募状況および選考結果の報告

2015・2016年度看護教育研究経費に関する実態調査報告

平成26・27年度日本私立看護系大学協会助成による研究成果報告会

1. 糖尿病性神経障害を予防・改善する積極的看護介入の確立に向けた試行研究
－糖代謝異常を有する患者に対する4週間の Slow Breathing Exercise が生体にもたらす生理学的効果－
後藤 慶太（茨城キリスト教大学）
2. 産業看護職のキャリアアンカー尺度の開発
久保 善子（東京慈恵会医科大学）
3. 日本語版 The Brief Resilience Scale（簡易レジリエンススケール）の信頼性と妥当性の検討
窪田 美由紀（東邦大学）
4. がん専門病院において終末期がん患者にかかわる看護師のコンピテンシーモデルの構築に関する研究
星名 美幸（関東学院大学）
5. 中堅看護師の自己教育を促すための病棟看護管理者の支援行動指標の開発
能見 清子（創価大学）
6. 正常妊婦における血圧と睡眠の関連－妊娠高血圧症候群予防に向けた健康教育の基盤構築－
岡田 公江（兵庫医療大学）
7. 入院患者の転倒予防のための基礎的研究－睡眠状況と QOL および転倒不安感に関する調査－
孫田 千恵（帝京大学 福岡医療技術学部）

8. 人工呼吸器ケアに関する看護実践教育プロトコル案の作成

築田 誠 (関西医療大学)

9. 妊娠10か月の妊婦の体格認識と抑うつとの関連について

土屋 さやか (宝塚大学)

(所属大学は採択時のもの)

第2部 看護研究の目的別アプローチ

「質的研究のシステマティックレビューの実際」

講師：今野 理恵 先生 (兵庫医療大学 看護学部 教授)

参加者：77名

セミナー評価はアンケート結果参照

②研究セミナー (兵庫)

2019年2月10日(日) 13:50～16:00 神戸女子大学

看護研究の目的別アプローチ「質的研究のシステマティックレビューの実際」

講師：今野 理恵 先生 (兵庫医療大学 看護学部 教授)

参加者：98名

セミナー評価はアンケート結果参照

【研究助成事業】

平成30年度の看護学研究奨励賞、若手研究者研究助成、国際学会発表助成の募集を4月～5月に行い、7月に選考委員会で選考した結果を理事会に提出、書類審査の上、助成者を決定した。8月から助成金の交付を行い、9月15日の「研究セミナー」で研究助成の募集および選考結果の報告を行った。

1. 2018(平成30)年度研究助成事業選考結果

1) 看護学研究奨励賞受賞者一覧

応募13件中5件採択した。

氏名	所属	論文名	掲載誌
瀧口 千枝	東邦大学 健康科学部	Development of the Nurses' Care Coordination Competency Scale for mechanically ventilated patients in critical care settings in Japan :Part1 Development of a measuring instrument :Part2 Validation of the scale	Intensive and Critical Care Nursing 43 (2017) 23-29,30-38
村田 洋章	国際医療福祉大学 成田看護学部	What prevents critically ill patients with respiratory failure from using non-invasive positive pressure ventilation:A mixed-methods study	Japan Journal of Nursing Science 2017,October;14:297-310

下田 佳奈	聖路加国際大学	Midwives' respect and disrespect of women during facility-based childbirth in urban Tanzania:a qualitative study	BMC Reproductive Health (2018) 15:8
西村 礼子	東京医科大学	Effects of different methods of reflection on nurses' gaze and judgement in a task using a touch panel	Journal of Clinical Nursing 2018;27:e569-e577
伊藤 有美	杏林大学	Factors affecting pain assesment scores in patients on mechanical ventilation	Intensive and Critical Care Nursing 42 (2017) 75-79

2) 若手研究者研究助成採択者一覧

応募 38 件中 9 件採択した。

氏名	所属	研究テーマ
武笠 佑紀	鈴鹿医療科学大学	患者の自殺に遭遇した看護師の心的外傷後成長 (Posttraumatic Growth) - 心的外傷後成長に至るプロセスに焦点を当てて -
中山 香映	昭和大学	出生時体重別の生後早期の栄養法と学童期の肥満度との関連
児玉 悠希	日本赤十字秋田看護大学	患者に提供される看護量予測方法に関する研究ービッグデータを活用した看護量予測ー
飯塚 幸恵	東京女子医科大学	全身性エリテマトーデス (SLE) 女性患者のリプロダクティブ・ライフにおける QOL と関連要因
藤井加那子	兵庫医療大学	処置を受ける幼児後期の子どもの覚悟していく姿
日浅 友裕	中京学院大学	がん放射線療法看護の質評価指標の信頼性および妥当性の検討
原口 昌宏	東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部	小児慢性疾患をもつ子どもの父親の経験から捉える Sence of coherence に関する研究
小泉 麗	昭和大学	重症心身障害児の医療行為に関する親の意思決定過程における看護実践～shared decision making における看護師の役割の考察～
阿部 美香	順天堂大学 医療看護学部	クリティカルケア領域においてせん妄を体験した患者の認知内容の解明

3) 国際学会発表助成採択者一覧

応募 16 件中 6 件採択した。

氏名	所属	発表論文	学会名および開催地
山本 由子	東京医療保健大学 千葉看護学部	Effect on Narrative Change and Improvement of Depression through Life Reviews in Older Adults with Dementia:A Mixed Methods Study (認知症高齢者へのライフレビューによる語りの変化と抑うつ軽減への効果：混合研究法)	MMIRA (Mixed Methods International Research Association) Conference2018/ Vienna,Austria
朝居 朋子	藤田保健衛生大学 (現藤田医科大学)	A First Nation -Wide Survey of Public Attitudes Towards Socio-Economic Incentives to Increase Willingness to Donate Organs in Japan (臓器提供意思を推進するための社会・経済的インセンティブ策に対する日本初の国民意識調査)	第 27 回国際移植学会 (TTS 2018 - 27th International Congress of The Transplantation Society)/ Madrid,Spain

佐藤 仁美	帝京平成大学 ヒューマンケア学部	Nursing Intervention of coping with life changes for family caregiver of primary malignant brain tumor patient (原発性悪性脳腫瘍患者の家族が生活の変化に適応するための対処を促す看護介入)	13thEANO (European Association of Neuro-Oncology) meeting: 第13回欧州脳腫瘍学会 / Stockholm,Sweden
川上 裕子	亀田医療大学	Early Stages of Public Health Nursing in Japan:Expansion of Health Centers Before and During World War II (戦時日本における保健所の普及過程にみる保健師の制度化と地域実践)	2018 AAHN Annual Conference (the American Association for the History of Nursing)/San Diego,USA
小林 寅詰	東邦大学 看護学部	Klebsiella isolated from cases of nail plate discoloration/pigmentation and their etiologic significance (ネイル装飾によって生じた色素沈着が認められる爪から検出された Klebsiella とその性状と背景について)	ASM Microbe 2018 / Atlanta,USA
上野 里絵	東京医科大学	Practices and attitudes toward parents with mental illnesses and their dependent children among mental health professionals:A nationwide survey of Japanese psychiatric hospitals (精神疾患を有する親およびその18歳未満の子どもに対するメンタルヘルスの専門家における支援の実態-日本の精神科病院における全国調査)	5th World Congress of Cultural Psychiatry/ NewYork,USA

2. 研究助成事業の応募状況と採択結果

【2015（平成27）年度から2018（平成30）年度】

年 度	看護学研究奨励賞 (1件100千円)		若手研究者研究助成 (1件300千円、 2018年度より500千円)		国際学会発表者助成 (1件200千円)		助成額 総額(千円)
	応募者数	受賞者数	応募者数	受賞者数	応募者数	受賞者数	
2015(平成27)	10	5	25	10	8	3	4,100
2016(平成28)	2	0	18	10	9	4	3,800
2017(平成29)	8	4	20	10	5	2	3,800
2018(平成30)	13	5	38	9	16	6	6,200
合計	33	14	101	39	38	15	17,900

【会議の開催】

第1回 2018年7月14日(土) 11:00～14:00 日本私立看護系大学協会事務局

出席者: 小川佳代、小寺栄子、島袋香子、野並葉子、前山直美、選考委員

議 題: 平成30年度研究助成の選考

- 1) 看護学研究奨励賞 応募13件 採択5件
- 2) 若手研究者研究助成 応募38件 採択9件
- 3) 国際学会発表助成 応募16件 採択6件

第2回 2018年9月16日(土) 10:00～12:00 日本私立看護系大学協会事務局

出席者：島袋香子、高見沢恵美子、野並葉子

議 題：1. 研究助成金について
2. 研究セミナーについて

第3回 2018年11月2日(金) 14:00～15:15 日本私立看護系大学協会事務局

出席者：島袋香子、高見沢恵美子、野並葉子

議 題：1. 研究助成事業規程と研究助成事業施行細則と募集要項の変更について
2. 2019年度の研究セミナー企画
3. 研究活動委員会分担調整について

第4回 2019年1月12日(土) 16:20～16:50 日本私立看護系大学協会事務局

出席者：島袋香子、高見沢恵美子、野並葉子

議 題：1. 2019年度研究セミナー講演テーマと講師について
2. 研究助成事業について

4. 今後の課題

- ①会員校における看護学研究者の育成のために適正で公正な研究助成事業を推進するために、日本私立看護系大学協会研究助成事業規程等の整備を行う。
- ②会員校の教職員が参加しやすい研究セミナー等の開催について検討する。

一般社団法人日本私立看護系大学協会

「研究セミナー」アンケート結果

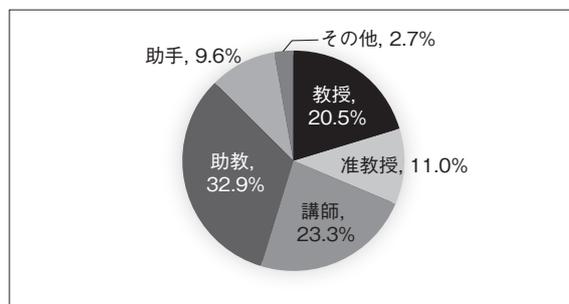
参加者数：77人 参加校数：55校 アンケート回答者数：75人（回答率：97.4%）

日時：2018年9月15日（土）10：00～16：00

場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

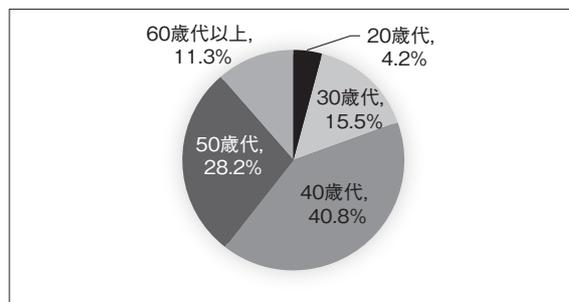
1. 職位 (回答数：73)

	人数	割合
教授	15	20.5%
准教授	8	11.0%
講師	17	23.3%
助教	24	32.9%
助手	7	9.6%
その他	2	2.7%



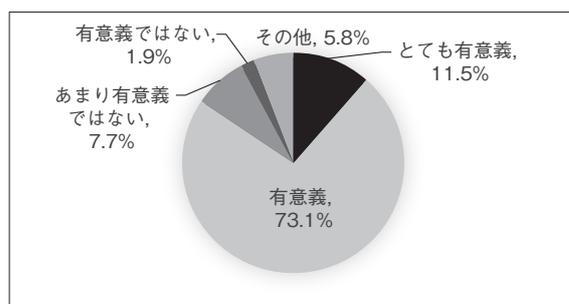
2. 年代 (回答数：71)

	人数	割合
20歳代	3	4.2%
30歳代	11	15.5%
40歳代	29	40.8%
50歳代	20	28.2%
60歳代以上	8	11.3%



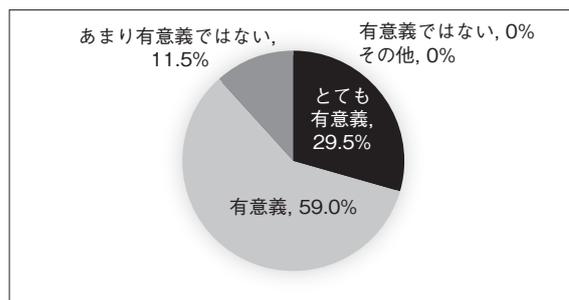
3. プログラム（第1部） (回答数：52)

	人数	割合
とても有意義	6	11.5%
有意義	38	73.1%
あまり有意義ではない	4	7.7%
有意義ではない	1	1.9%
その他	3	5.8%



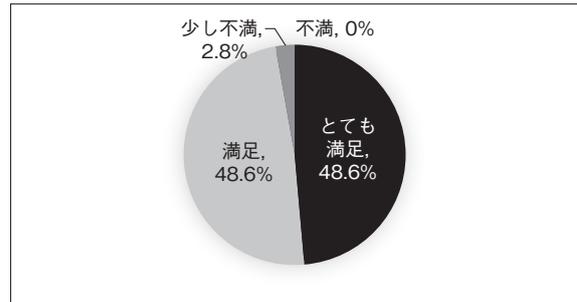
4. プログラム（第2部） (回答数：61)

	人数	割合
とても有意義	18	29.5%
有意義	36	59.0%
あまり有意義ではない	7	11.5%
有意義ではない	0	0%
その他	0	0%



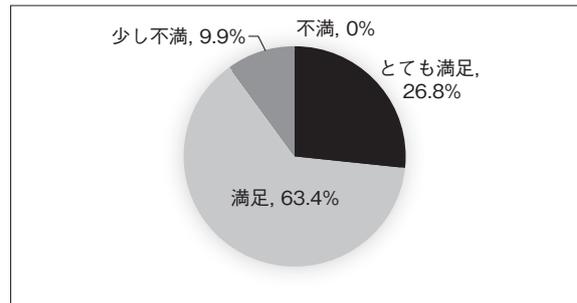
5. 申込方法 (回答数：72)

	人数	割合
とても満足	35	48.6%
満足	35	48.6%
少し不満	2	2.8%
不満	0	0%



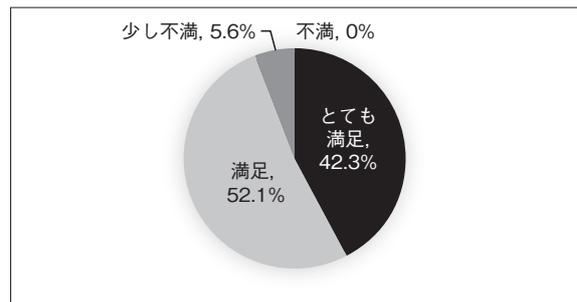
6. 事前情報 (回答数：71)

	人数	割合
とても満足	19	26.8%
満足	45	63.4%
少し不満	7	9.9%
不満	0	0%



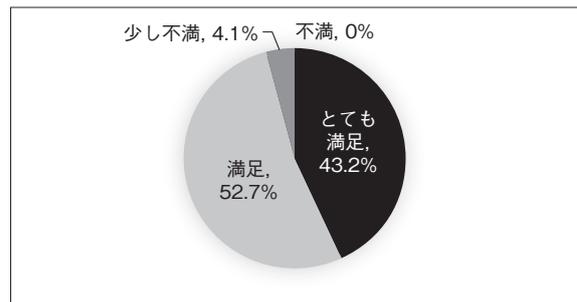
7. 配布資料 (回答数：71)

	人数	割合
とても満足	30	42.3%
満足	37	52.1%
少し不満	4	5.6%
不満	0	0%



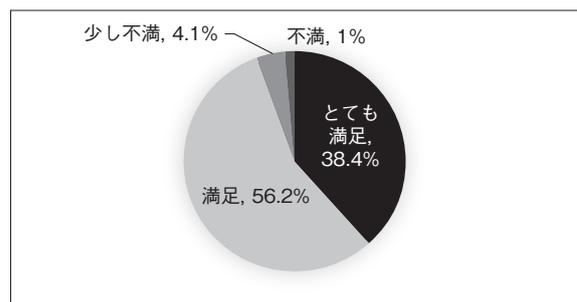
8. 会場 (回答数：74)

	人数	割合
とても満足	32	43.2%
満足	39	52.7%
少し不満	3	4.1%
不満	0	0%



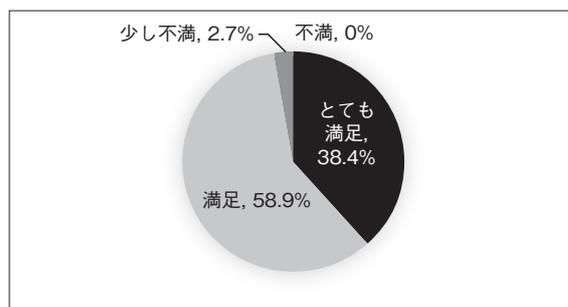
9. 映像 (回答数：73)

	人数	割合
とても満足	28	38.4%
満足	41	56.2%
少し不満	3	4.1%
不満	1	1%



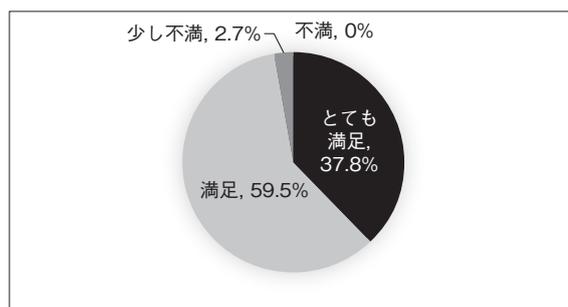
10. 音響 (回答数：73)

	人数	割合
とても満足	28	38.4%
満足	43	58.9%
少し不満	2	2.7%
不満	0	0%



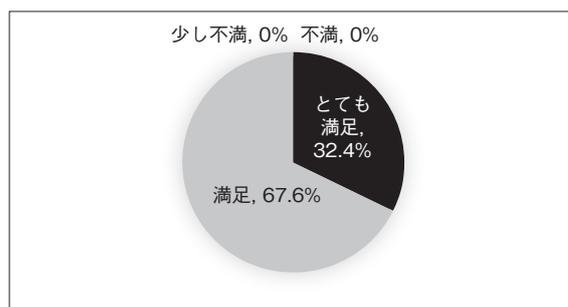
11. レイアウト (回答数：74)

	人数	割合
とても満足	28	37.8%
満足	44	59.5%
少し不満	2	2.7%
不満	0	0%



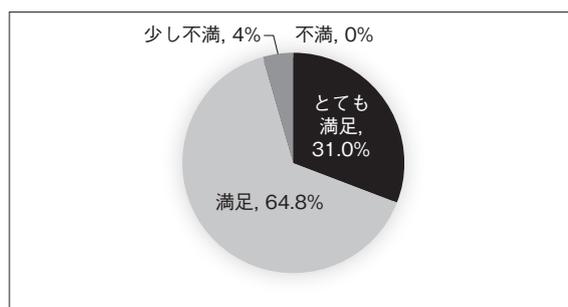
12. テーマの提示 (回答数：74)

	人数	割合
とても満足	24	32.4%
満足	50	67.6%
少し不満	0	0%
不満	0	0%



13. セミナー全体 (回答数：71)

	人数	割合
とても満足	22	31.0%
満足	46	64.8%
少し不満	3	4%
不満	0	0%



【アンケート自由記述】

1. 成果報告会・研究助成について

- ・第1部のみ参加した。30万円の助成で研究の質に偏りがあると思った。
- ・英文での投稿や発表について知りたい。
- ・助成論文について“自立して研究することができることを支援する”ことが主目的だとは思いますがデザインや解釈が浅く、研究としてどうなのか思うものがあつた。この仕組みについて改善していただきたい。

- ・字が小さくて見えにくい時があった。発表者で声がとても大きい方がいたので聞きづらい時があった。
- ・研究成果報告はいずれも私看協の研究助成を受けた研究であるが、研究計画自体に問題（課題）があると思われるものがいくつかあると感じた。今後、研究の質を向上させるために研究活動への支援の必要性を感じた。
- ・委員会活動報告書が手元になかったため本日の資料にデータを一部載せていたらもっとわかるのではと思った。

2. 講演について

- ・今野先生の講演時間がもう少し長いとよかったと思う。
- ・とても勉強になった。
- ・今後の研究活動に大変役立つ内容だった。
- ・実際の事例を示されたのでわかりやすかった。メタエスノグラフィーについてお話を聞きたいと思った。
- ・今野先生の講義は大変良かったと思う。時間が不足して残念だった。パート2として、メタエスノグラフィーの動向を是非お願いしたい。
- ・メタエスノグラフィーについて学びたいと思い参加した。それがなかった。
- ・SRの講演は自分のレビューの考え方にも参考になった。

3. 今後の研究セミナーについて

- ・システマティックレビューの実際について具体的について知りたい。
- ・今野先生の本日の内容をもう少し詳しく聞きたい。
- ・システマティックレビュー複数日程にわたるワークショップ、他の研究方法についてのワークショップ
- ・今回の質的研究セミナーの続編を希望する。
- ・量的研究研修会を希望。
- ・本日講演された今野先生のSRのワークショップ（シリーズ）を是非企画していただいて、実際のところを伺いたい。
- ・査読の方法（特に質的研究）

4. 会場について

- ・会場の温度管理がもっとできているとよかった。寒すぎた。会場の人が、上着を着ていたりするサインをよく見てほしかった。
- ・照明が明るすぎてスライドが少し見にくかった。発表時、前の照明がオフ又はダウンできるようなら対応していただけると助かる。

一般社団法人日本私立看護系大学協会

研究セミナー「質的研究のシステマティックレビューの実際」アンケート結果

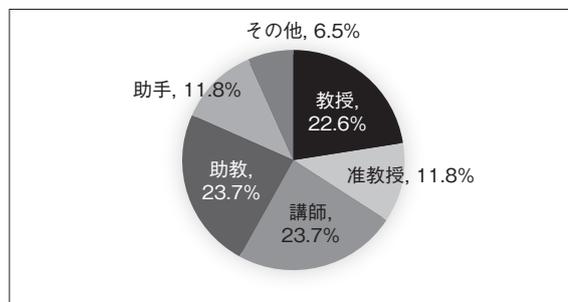
参加者数：98人 参加校数：48校 アンケート回答者数：96人（回答率：97.9%）

日時：2019年2月10日（日）13:50～16:00

場所：神戸女子大学

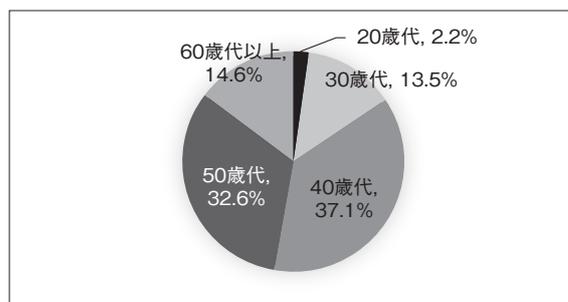
職位

	人数	割合
教授	21	22.6%
准教授	11	11.8%
講師	22	23.7%
助教	22	23.7%
助手	11	11.8%
その他	6	6.5%
合計	93	100%



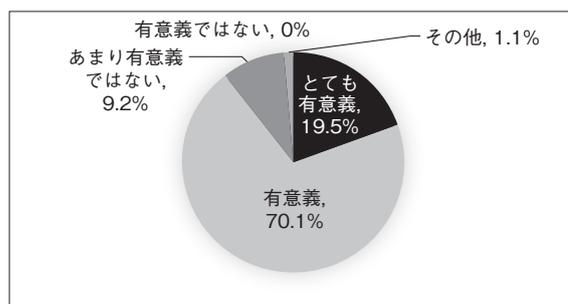
年代

	人数	割合
20歳代	2	2.2%
30歳代	12	13.5%
40歳代	33	37.1%
50歳代	29	32.6%
60歳代以上	13	14.6%
合計	89	100%



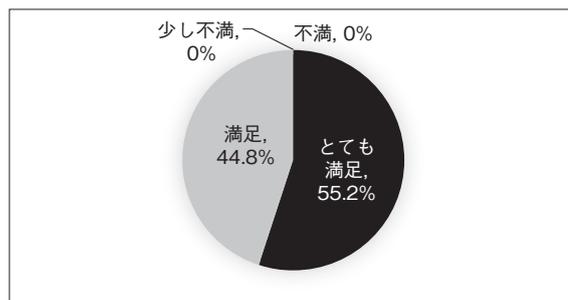
I. 講演

	人数	割合
とても有意義	17	19.5%
有意義	61	70.1%
あまり有意義ではない	8	9.2%
有意義ではない	0	0%
その他	1	1.1%
合計	87	100%



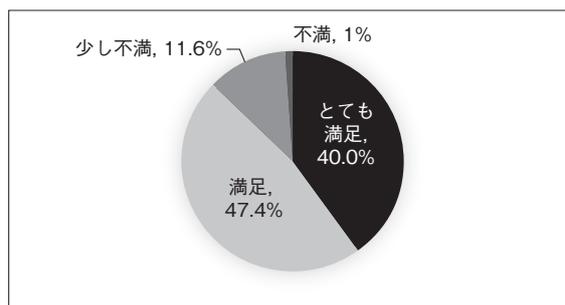
II-1. 申込方法

	人数	割合
とても満足	53	55.2%
満足	43	44.8%
少し不満	0	0%
不満	0	0%
合計	96	100%



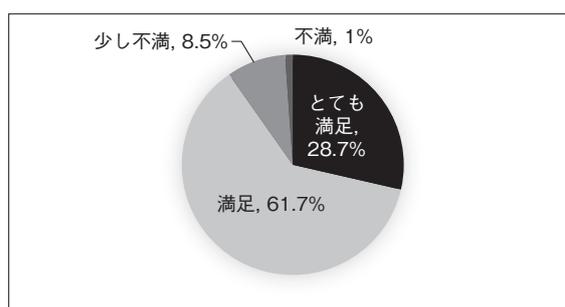
II - 2. 事前情報

	人数	割合
とても満足	38	40.0%
満足	45	47.4%
少し不満	11	11.6%
不満	1	1%
合計	95	100%



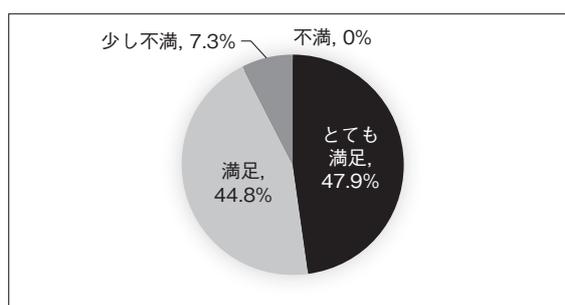
II - 3. 配布資料

	人数	割合
とても満足	27	28.7%
満足	58	61.7%
少し不満	8	8.5%
不満	1	1%
合計	94	100%



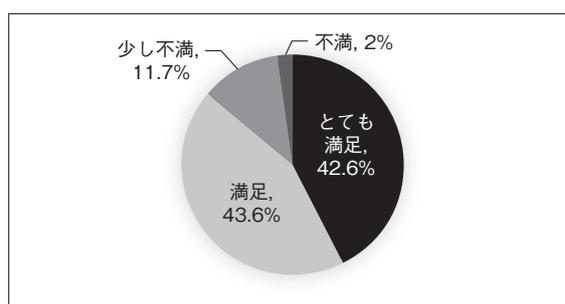
III - 1. 会場

	人数	割合
とても満足	46	47.9%
満足	43	44.8%
少し不満	7	7.3%
不満	0	0%
合計	96	100%



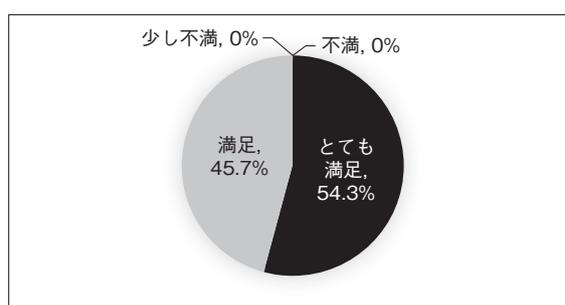
III - 2. 映像

	人数	割合
とても満足	40	42.6%
満足	41	43.6%
少し不満	11	11.7%
不満	2	2%
合計	94	100%



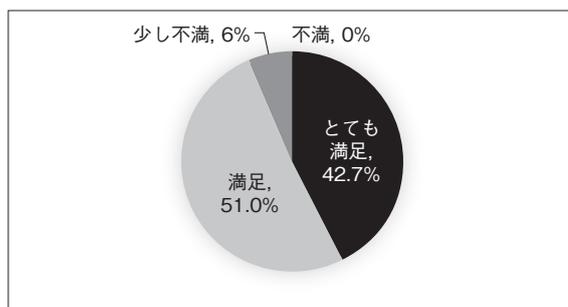
III - 3. 音響

	人数	割合
とても満足	51	54.3%
満足	43	45.7%
少し不満	0	0%
不満	0	0%
合計	94	100%



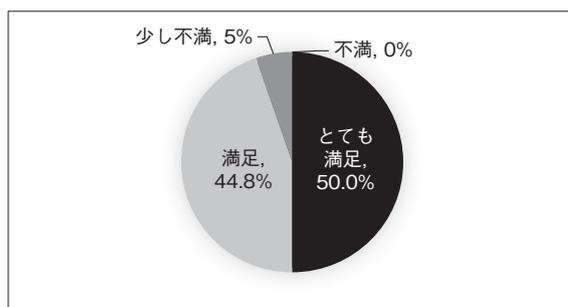
Ⅲ－ 4. レイアウト

	人数	割合
とても満足	41	42.7%
満足	49	51.0%
少し不満	6	6%
不満	0	0%
合計	96	100%



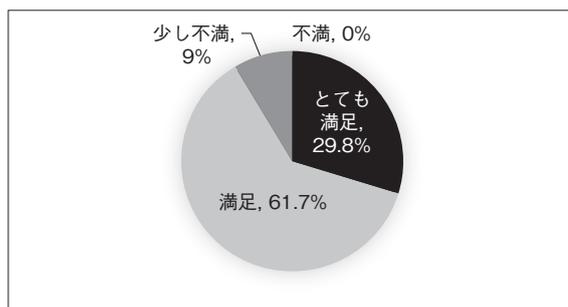
Ⅲ－ 5. テーマの提示

	人数	割合
とても満足	48	50.0%
満足	43	44.8%
少し不満	5	5%
不満	0	0%
合計	96	100%



Ⅳ. セミナー全体

	人数	割合
とても満足	28	29.8%
満足	58	61.7%
少し不満	8	9%
不満	0	0%
合計	94	100%



Ⅴ. 参加したいセミナー内容や、その他、ご意見

- ・ 貴重な研修内容でした。企画、運営誠にありがとうございました。今野先生の素敵なお人柄にも魅せられました。様々な意味で大変勉強になる時間でした。
- ・ SRのセミナーに参加して、本当に学ぶことが多いと感じました。
- ・ 大変内容の濃い研修会でした。また、具体的なワークショップを開いてほしい。
- ・ 研究セミナーとして、質的ソフトの活用方法（JBI-QARIソフト、NVIVO、Excel）のメリットデメリットも含むものを教えて欲しい。
- ・ 今後の研究の参考になりました。
- ・ 研究をしていく上で、大切にしていける点など良く分かりました。
- ・ 今野先生による、SRのワークショップに参加し、実際にやってみたいと思います。是非、企画をお願いします。
- ・ 勉強不足で研修内容が十分理解できなかった。ついていけない部分が多々あった。
- ・ Critical Appraisal スコアーはどのように決めるのですか？
- ・ 学ぶ機会がなかなかないテーマで有難かった。

- ・1日かけて研修をしていただきたい。
- ・新しい研究手法に関して教授いただき参考になりました。
- ・具体的なイメージができる内容でした。
- ・ベースの自分の知識不足
手元にない資料メモし切れませんでした。
- ・今回はなかなか聞く機会のないテーマに関して講演して頂き、ありがとうございました。レベルが高く、詳細な理解まではできていませんが流れやイメージがつかめました。もっと研鑽しないといけないと痛感したのと、やってみたいなという思いになりました。
- ・今、大学院で学んでいますが、質的研究に取り組んでいますので、今回の研修を受けることができ、今後の研究（修士論文）に役立てたいと思っています。
- ・取り組んでみよう！と思えるような講義でした。
- ・シリーズの継続を希望します。次回は、具体的なSRの進め方を、事例を使ってお示しいただけるとありがたいです。（例:PICOに合致した&PICOに合致しない論文の抽出例や、2名のレビューアーのあった結果の比較の具体例の提示など）
- ・英単語が多いため（訳、解説）をつけてほしい（資料）
講師が勉強したテキスト内容の引用が多い印象をうけるため、現実に則した初心者にわかりやすいものを希望します。（動向はよくわかります。）お話を聞いていて意味がわかり大変興味深く、よくわかりました。継続してゼミに参加（今野先生の）したいと思いました。
- ・配布資料と表示スライドの文言の違いや、かけ足で講演していただいても、内容についていけない。内容が濃いものであれば、時間を十分にとって開催すべき。
- ・教員歴、研究歴は浅いため少しかけ足な講演についていくのが必死でしたので、もう少し時間の余裕があれば有難かったです。まだ、未熟な状態での参加でしたのでもう少し事前学習しておけばよかったと反省しております。お話していただいた内容は分かりやすいものでしたので、後で復習して理解を深めたいと思います。
- ・今後勉強していかないといけないことが沢山あると思いました。
- ・新しいことばかりで、内容を理解していくのは難しかったです。大変勉強になり、新しい知識を得ることができ、今後も学習していきたいと思いました。
- ・講演のテーマ以外に概要あるいはスライド2「本日の内容」が事前にあると準備して臨めたのではないかと思う。質的論文の査読にヒントが得られ満足している。
- ・初心者コース、中級などレベルがわかるほうが理解しやすいです。これで出来るか不安なので。全体を理解するには予想より難しかったです。勉強になりました。
- ・最新情報を追加資料として頂けると更に良かったと思います。
- ・まだ学術研究に取り組んでいないので基盤がない中で理解の難しいところもありました。わからないというかわからない段階
- ・私の勤務する大学には、本セミナーのお知らせがなかった（事務の問題かもしれませんが）ので、事前情報が届くとよかったです。
- ・駅から近くて良いのですがわかりづらくて迷いました。とくに構内で迷ったので看板を増やして頂けると助かります。
- ・開演時間の遅れが気になりました。オリエンテーションが入るので講演時間が短くなってしまいました。残念です。
- ・グランデッドセオリーなど焦点化した方法論の研修会の開催を希望します。

3. 国際交流委員会

1. 趣旨

- ①看護における教育、学術及び文化の国際交流を通して、将来国際的に関連機関との連携協力及び援助に繋がるための方策の調査研究
- ②看護界の動静と看護学教育の国際交流の現状と将来についての講演会等の実施
- ③上記①、②に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 小山 眞理子（日本赤十字広島看護大学）
堀内 成子（聖路加国際大学）
（委員）
荒川 満枝（鳥取看護大学）

3. 活動報告

国際交流委員会では、看護学教育、看護職の育成を国際的な視点から検討することを目的に、教育、学術および文化の国際交流事業として、情報を収集し、現状の把握、将来の方向性の探求などの事業を展開している。平成28年度は、大学におけるグローバル人材育成に関する教育の実態調査を行い、平成29年度は、前年度のWEB調査にご協力いただいた大学の中から、大学のグローバル人材育成に関する教育について、特に国際交流活動を活発に実施されている大学から6校の大学にご協力をいただき、面接調査を行った。

平成30年度は、前年度の面接調査を行った大学のうち、大学周辺の地域での在日外国人への活動も実施しておられる3大学のご協力を得て、日本国内における国際交流事業に焦点をおいて、次のように研修会を開催した。研修会後のアンケートでは、各大学のユニークな取り組みから多くの示唆が得られたと高い評価であった。今後の国際交流に関する研修会の実施に向けて多面的な取り組みの必要性が示唆された。

1) 研修会：「私立看護系大学におけるグローバルな人材育成—地域における活動を中心に—」

日 時：2018年11月11日（日）13：00～16：00

会 場：TKP新大阪ビジネスセンター

プログラム：

開会の挨拶：グローバルな人材育成に関する日本私立看護系大学協会の取り組み

国際交流委員会委員長：小山 眞理子

講演1：ハノイ医科大学の看護学生が日本の看護師資格を取得するための試み

講師：久納 智子 先生（藤田医科大学 教授）

講演2：在日外国人のヘルスプロモーション活動を通じた看護学教育

講師：長松 康子 先生（聖路加国際大学 准教授）

講演3：国際看護学の視点からの国際交流と地域との協働活動をとおして

講師：望月 経子 先生（高崎健康福祉大学 准教授）

質疑応答

閉会の挨拶

参加者：41名（26校）

2) 平成29年度報告書「大学におけるグローバル人材育成に関する教育についての6大学の面接調査」を本協会ホームページにアップした。

4. 今後の課題

グローバル化の加速する社会において活躍できる人材の育成の重要性が増している。そのため看護教育のあり方について、情報交換と交流を推進し、グローバル社会のニーズに対応する看護教育のあり方およびカリキュラムの体系化について議論を進める。

また、グローバル化人材育成に取り組むためには、まず大学の全教職員がグローバル化に取り組むことが課題であるとの発想の転換が求められている。大学の教職員の意識の変革を行う方策を見出すための議論を進めていく。

一般社団法人日本私立看護系大学協会 国際交流委員会
 「私立看護系大学におけるグローバルな人材育成 - 地域における活動を中心に -」
 アンケート結果

参加者数：41人 参加校数：26校 アンケート回答者数：41人（回答率：100%）

日時：2018年11月11日（日）13:00～16:00

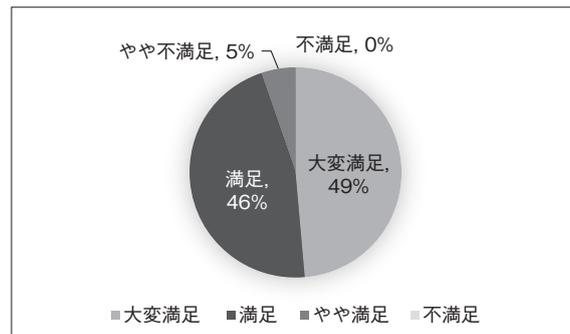
会場：TKP 新大阪ビジネスセンター

I. 講演会

講演1. 「ハノイ医科大学の看護学生が日本の看護師資格を取得するための試み」

①講演の内容について

	人数	割合
大変満足	19人	49%
満足	18人	46%
やや不満足	2人	5%
不満足	0人	0%
合計	39人	100%



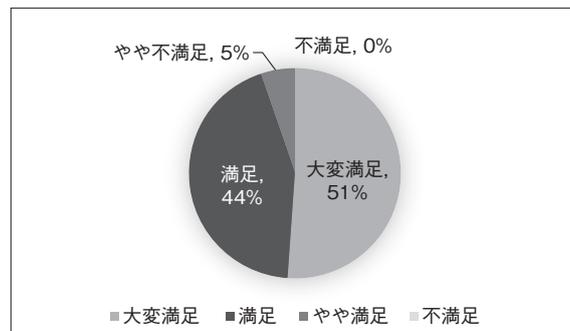
②ご意見・ご感想

- ・ユニークな取り組みを知ることができました。
- ・しっかりとしたプロジェクトを立ち上げておられる点、大変参考になりました。今後の展開が大変興味深いです。
- ・どこかで、また経過をお伝えください。（これからの4年間）
- ・大変興味深くお聴きしました。日本での日本語の対応に日本語教師ではなく教員が行っていることに驚きました。
- ・とても興味深い内容だった。今後の経過についても引き続き知る機会を設けてほしい。
- ・通常の業務にプラスして、そのような活動をされてこられて感銘を受けました。
- ・興味深いプロジェクトだと思いました。
- ・これからの日本に求められるプログラムだと思いました。
- ・どの様にハノイ大学学生の受け入れを行っているのかが非常によく理解できた。
- ・資料も内容も充実しており、興味深く受け取れました。
- ・新規性のある試みで、大変興味深く拝聴しました。
- ・新たな挑戦について、今後を楽しみにしています。

講演2. 「在日外国人のヘルスプロモーション活動を通じた看護教育」

①講演の内容について

	人数	割合
大変満足	20人	51%
満足	17人	44%
やや不満足	2人	5%
不満足	0人	0%
合計	39人	100%



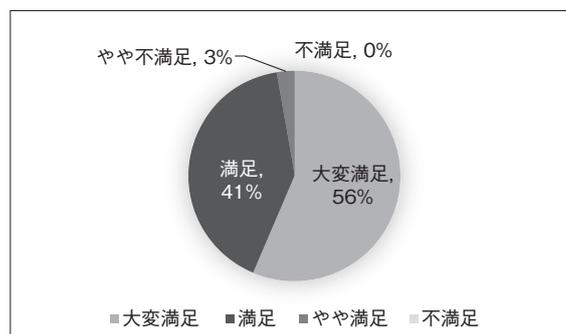
②ご意見・ご感想

- ・在日外国人のことを知らない自分に気づきました。
- ・講師の先生のお人柄がとても伝わりました。このような先生のところで学びたいと思いました。また、講演内容も良く、今後の教育活動に生かしたいと思いました。
- ・外国でのナース経験を分かりやすく話していただき大変参考になりました。日本にいて地域の在日外国人との関りをより大切にするのが大事であると更に考えさせられました。
- ・基本の基本を教わりました。
- ・在日外国人と学生を関わらせる取り組みなど視点がユニークで且つ必要なことだと改めて感じました。
- ・私の専門は国際看護ではありませんが、在日の方のお話、先生の取り組みをうかがい自分の専門分野の教育で、ほとんど伝えてこなかったことを反省しました。今後の講演でぜひ取り入れたいと思った。「難しいことではなく、身近なことである」と気付けるように伝えたい。
- ・とても興味深かったのですがもう少し詳しく科研のことなどききたかったです。どのように地域に入っていったのか。
- ・個人としても日常的に支援をされてこられたことに感銘を受けました。
- ・国際看護学としての大学の位置付けや留学生関係とは別組織で教員は動いているのか？知りたかったです。
- ・在日外国人の日本での苦勞や生活背景がよくわかりました。高齢社会におけるヘルスプロモーション活動の必要性を日本人外国人両面から考えさせられました。
- ・身近な立場で関りの中から健康ニーズをとらえて取り組むことをされていて、学生の学びにもつながるといいと思いました。
- ・体験のお話は貴重な教材です。具体的な参考になりありがたかったです。
- ・海外へ出かけるだけでなく、身近にグローバルな視野を形成していける可能性にふれることができ、感謝しております。
- ・病院で外国人患者受診のコーディネート業務を経験したことがあり、本テーマについて大変興味があります。現場で必要とされる知識や姿勢をどのようにして教育に反映させていくか、今後も勉強させていただきたいと思います。
- ・相変わらず様々なことをはっきり言って下さる長松先生です。一緒に研究させていただけたら楽しいなと思わせていただきました。

講演3. 「国際看護学の視点からの国際交流と地域との協働活動をとおして」

①講演の内容について

	人数	割合
大変満足	22人	56%
満足	16人	41%
やや不満足	1人	3%
不満足	0人	0%
合計	39人	100%

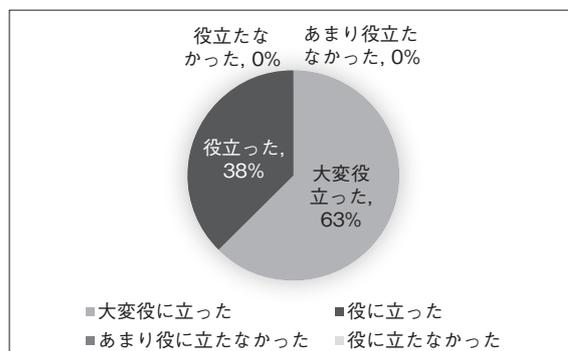


②ご意見・ご感想

- ・教員配置や費用のことなど参考になりました。
- ・地域にしっかりと根差して今後活動を深めていかれると思います。課題が多く困難も多いと思いますが頑張ってください。
- ・我国もこれから考えていきたいと思う内容でした。
- ・人の思いや協力がなければ成り立たないことが多いと思いました。
- ・具体的な実践活動が参考になった。
- ・地域との協働を期待していました。
- ・地域活動に感銘を受けました。
- ・海外研修の具体的なお話が聞いてよかったです。国際看護教員2名体制だからこそこれだけ密な国際交流ができるのでしょうか……。また、地域特性に応じた支援活動について非常に興味深いです。今後の報告を楽しみにしています。
- ・分かりやすかった。
- ・学生を連れていくプログラムの現実的な部分が聞いた。
- ・国際交流の具体的な内容がよく理解できた。
- ・現状においては先駆的な取り組みですので大変参考になりました。
- ・留学前後の研修会を体系的に行われている点について、本学でも取り入れられると良いと思いました。興味のある学生は多いものの金銭面、日程面での課題はどちらの大学でも同じであることがわかり、何か対策がないものかと思うばかりです。
- ・地域との活動、つながりなどについて参考になった。
- ・大泉町を抱える群馬にある大学としてのシステムティックなど取り組みを分かりやすく説明いただきました。

II. 私立看護系大学でグローバルな人材育成する上で、今回の企画はいかがでしたでしょうか？

	人数	割合
大変役に立った	25人	63%
役に立った	15人	38%
あまり役に立たなかった	0人	0%
役に立たなかった	0人	0%
合計	40人	100%



ご意見・ご感想

- ・大変勉強になりました。
- ・貴重な講演、大変勉強になりました。
- ・今後も実践報告など是非取り入れて下さい。今回の研修で私自身の視野も広がり、大変勉強になった。
- ・多くの示唆を得ることができました。
- ・他大学のお話を聞き、共感することが多々あり、又参考になりました。
- ・各先生方の実践をうかがえたので、今後の活動へのヒントをたくさんいただきました。
- ・色々な視点からの講演で、とても満足した。
- ・自分の所属する大学との共通点も見出され勇気づけられた。
- ・色々な取り組みを聞いて参考になりました。
- ・とても興味深くどの講義も聞かせていただきました。
- ・自分の関りがある分野でしたので、いい刺激をいただきました。海外に出る方法ではない、国際交流も重要だと考えます。

- ・日本国内の地域における活動紹介に興味をもてた。
- ・他大学での具体的な活動について知る機会となりました。
- ・それぞれの大学で取り組まれて活動が知れて、とても興味深く聴かせていただきました。参考にさせていただきたいと思います。
- ・在日外国人については、今日に限らず様々な課題がありますが、新しい分野への各先生方の取り組みがわかりました。
- ・まだまだ少数派である取り組みを参考にできた。(今後できそう)

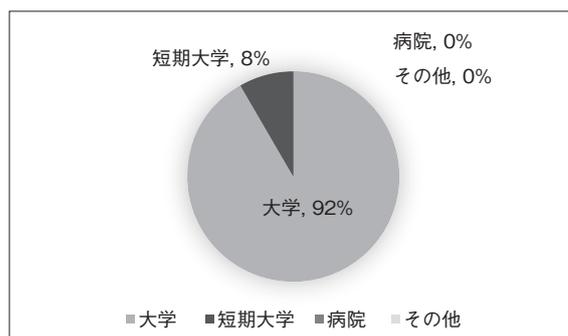
Ⅲ. 今後、日本私立看護系大学協会「国際交流委員会」で行う研修会や事業について、 希望するテーマ、開催方法、開催時期、場所などについて

- ・補助金の取り方が少しわかった。
- ・グローバル人材の育成、在日外国人の健康支援について
- ・いつも興味深いテーマです。東京はなかなか参加できないので、可能でしたらいつも動画配信していただけるとありがたいです。
- ・高崎健康福祉大学のような国際交流実践の具体例をあと何校か聞かせていただければありがたい。
- ・引き続きグローバル人材育成という重要なテーマで研修会を続けてほしい。具体的な取り組みや事例をあげてお話いただくと分かりやすいと思う。
- ・それぞれの大学でされている貴重な取り組みの報告会など聞きたいと思います。
- ・国際看護教育のシラバス作成
- ・土曜日の開催希望（月曜日授業のため）
- ・臨床現場で必要とされる具体的な内容に関して
- ・医療や看護に関する国際交流の活動を始めるにあたっての準備、日頃からできることについて（教員等の人脈やフィールドがない、文系だった大学、付属の病院や施設がないなど1から企画するときの参考となること）
- ・せめて東京で。可能なら東北か北海道で開催していただきたく存じます。

Ⅳ. 参加者について

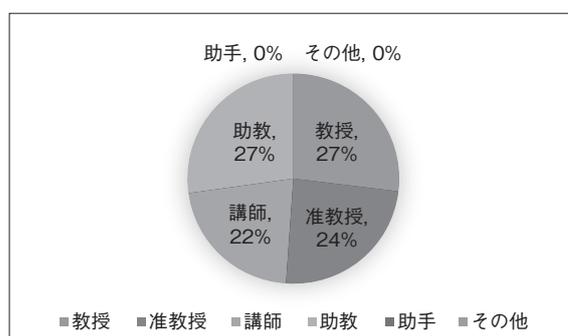
①ご所属について

	人数	割合
大学	34人	92%
短期大学	3人	8%
病院	0人	0%
その他	0人	0%
合計	37人	100%



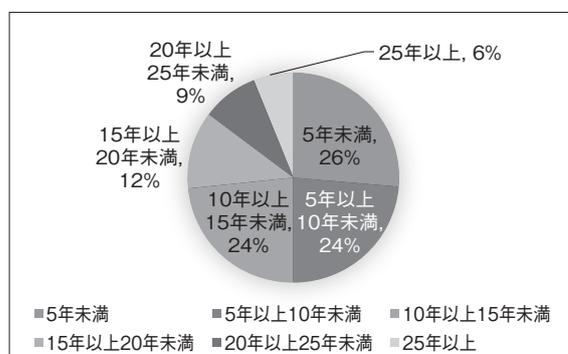
②職位について

	人数	割合
教授	10人	27%
准教授	9人	24%
講師	8人	22%
助教	10人	27%
助手	0人	0%
その他	0人	0%
合計	37人	100%



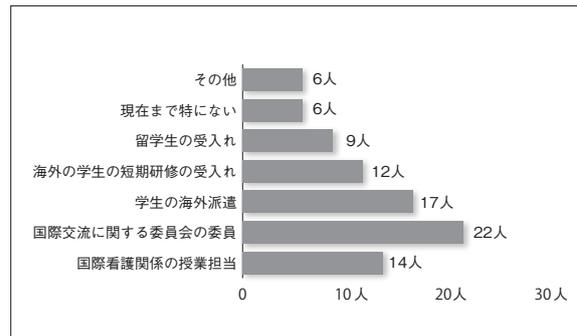
③在職期間

	人数	割合
5年未満	9人	26%
5年以上10年未満	8人	24%
10年以上15年未満	8人	24%
15年以上20年未満	4人	12%
20年以上25年未満	3人	9%
25年以上	2人	6%
合計	34人	100%



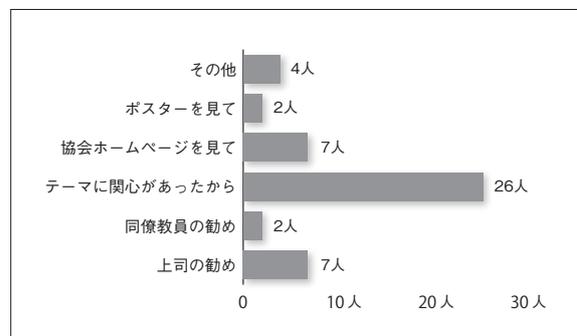
④国際看護や国際交流についての職務について（複数回答可）

	人数	割合
国際看護関係の授業担当	14人	16%
国際交流に関する委員会の委員	22人	26%
学生の海外派遣	17人	20%
海外の学生の短期研修の受入れ	12人	14%
留学生の受入れ	9人	10%
現在まで特にない	6人	7%
その他	6人	7%
合計	86人	100%



⑤今回の講演会への参加のきっかけ

	人数	割合
上司の勧め	7人	15%
同僚教員の勧め	2人	4%
テーマに関心があったから	26人	54%
協会ホームページを見て	7人	15%
ポスターを見て	2人	4%
その他	4人	8%
合計	48人	100%



4. 大学運営・経営委員会

1. 趣旨

- ①私立看護系大学の振興に必要な国、地方公共団体又は民間からの補助金、寄付金、その他の支援が可能になるような実態調査・分析
- ②大学運営・経営の向上に繋がる事業を展開するための方策の調査研究
- ③上記に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 道重 文子（大阪医科大学）
- 久保 かほる（埼玉医科大学短期大学）
- 長澤 正志（淑徳大学）
- 春山 早苗（自治医科大学）

3. 活動報告

1) 看護系大学の教育等に関する実態調査について

(1) 日本看護系大学協議会・日本私立看護系大学協会合同調査プロジェクト合同会議

日 時：2018年9月16日（日） 17：30～19：45

場 所：日本看護系大学協議会 事務所

参加者：日本看護系大学協議会【荒木田美香子、石田千絵、佐藤政枝、事務局 潮洋子、川口朝子（敬称略）】

日本私立看護系大学協会【河口てる子、道重文子、春山早苗、事務局 福島洋子（敬称略）】
株式会社アクロス【藤波健一、金子智行】

審議事項：①質問票（大学関係）についてのすり合わせと内容確認し、以降はメールにて内容確認を行った。

②実施時期などスケジュールの検討

日 時：2019年2月12日（火） 17：30～19：30

場 所：日本看護系大学協議会 事務所

参加者：日本看護系大学協議会【荒木田美香子、石田千絵、磯野真穂、小檜山敦子、事務局 潮洋子、川口朝子（敬称略）】

日本私立看護系大学協会【道重文子、長澤正志、事務局 山本亜矢子（敬称略）】
株式会社アクロス【藤波健一、金子智行】

審議事項：①回収状況について

②集計結果の検証

③今後のスケジュールについて

④Q&A、次年度に向けて

⑤その他

日 時：2019年3月31日（日） 18：00～20：30

場 所：日本看護系大学協議会 事務所

参加者：日本看護系大学協議会【荒木田美香子、事務局 潮洋子（敬称略）】

日本私立看護系大学協会【道重文子、事務局 山本亜矢子（敬称略）】

株式会社アクロス【藤波健一、金子智行】

審議事項：①集計結果の検証

②今後のスケジュールについて

(2) 調査期間

2018年10月25日（木）～12月4日（火）（12月14日まで延長）

2) 看護系短期大学の教育等に関する実態調査について

看護系大学の教育に関する実態調査質問紙を基に短大版を作成（メール会議）

調査期間：2018年10月25日（木）～12月4日（火）（12月14日まで延長）

集計結果の検証

3) 2018年度研修会

テーマ：「IRを大学運営・看護教育にどう生かしていくか」

日時：2018年11月6日（火）13:00～16:40

会場：聖路加国際大学 日野原ホール

プログラム：

講演1：IRの意義と具体例

講師：風間 直樹 氏（株式会社ベネッセi-キャリア）

講演2：総合大学での取り組み事例

講師：後藤 匠 氏（國學院大学 総合企画部企画課）

講演3：看護系単科大学での取り組み事例

講師：永瀬 能央 氏（聖路加国際大学 IR推進室マネジャー）

参加者：73人（47校）

4) 打ち合わせ会議

①2018年11月2日（金）定例理事会終了後

②2018年11月6日（火）研修会終了後

③2018年12月11日（火）17:00～19:00

④2019年3月21日（木）定例理事会終了後

4. 今後の課題

1) 看護系大学の教育等に関する実態調査結果の活用について

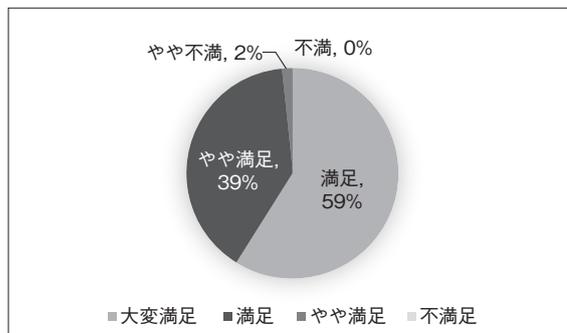
2018年度から日本看護系大学協議会と合同調査になった。調査結果から学費の格差が明らかとなった。私立大学系には大学独自の奨学金制度が設けられていた。経済的学修環境の整備について提言する方策を考えることである。

2) 研修計画

大学運営・経営強化のために年1回研修会を企画している。教育の質向上および補助金獲得等の知見が得られる企画を立案していくことである。

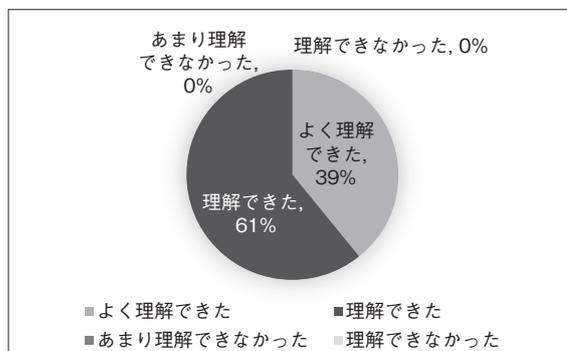
1. 本日の研修会の企画についていかがだったでしょうか？

	人数	割合
満足	36	59%
やや満足	24	39%
やや不満	1	2%
不満	0	0%
合計	61	100%



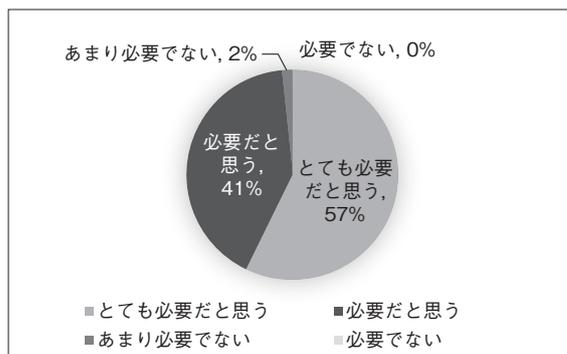
2. 内容は理解できたでしょうか？

	人数	割合
よく理解できた	24	39%
理解できた	37	61%
あまり理解できなかった	0	0%
理解できなかった	0	0%
合計	61	100%



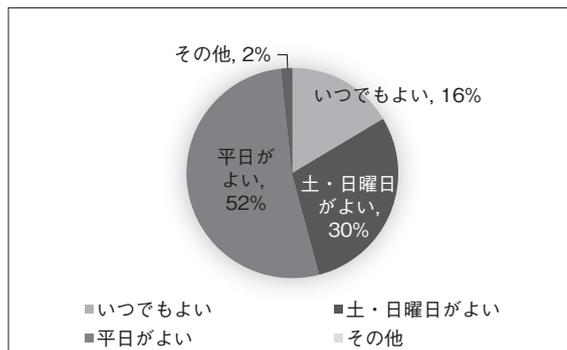
3. これからも関係法令や財務等の管理運営に関する研修会が必要だと思いますか？

	人数	割合
とても必要だと思う	35	57%
必要だと思う	25	41%
あまり必要でない	1	2%
必要でない	0	0%
合計	61	100%



4. 研修会を開催する曜日はいつがよいでしょうか？

	人数	割合
いつでもよい	10	16%
土・日曜日がよい	18	30%
平日がよい	32	52%
その他	1	2%
合計	61	100%



5. 希望テーマ

- ・具体的な看護に関するデータのベンチマークなど
- ・カリキュラム改編について
- ・教育評価について
- ・看護系大学における FD・SD 活動、看護研究（科研費獲得に向けて）、看護実習と演習の指導評価
- ・財務分析、財務指標の使い方
- ・これからの社会が求める看護師について
- ・IR、情報セキュリティ
- ・IRへの関心が高まっている中ですのでぜひ又IRをテーマとした各大学の事例発表を拝聴したい。
- ・AIと看護
- ・職員と教員 mismatches について
- ・18歳人口が減少する中、養成大学が増加しています。今後どのようになるのか。どうすれば良いのか。検討していく機会があればと考えます。
- ・ICT関係、アクティブラーニング関係

6. その他、ご意見ご要望等

- ・グループワークの時間が短すぎた。16：15までの予定だったのに16：00までだった。
- ・今日は事務の方も参加可能ということが周知不足な気がした。事務方の参加が、IR構築のために必要であることがわかり、本学は一緒に参加せずに残念であった。
- ・IRについての文科省担当者の意見（コメント）、講演があってもよかった。
- ・事務の方が中心でしたがご苦労がよくわかりました。教員とも連携していけるとよいと思いました。
- ・意見交換は不要かなと思います。
綺麗な会場でお話が聞けてとても良い時間を過ごすことができました。
- ・勉強になりました。
- ・この座席でグループワークは無理だと思う。
- ・GWは少し中途半端でした。
- ・全般的かつ具体的な事例も聞いて参考になりました。
- ・パソコンを入力している人のタイピングの音が大きくすごく気になって耳障りだった。

5. 渉外委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の発展のため外部の組織に働きかけ、看護教育並びに看護専門職としての充実・発展に必要な国の制度や法令、文教行政や予算、高大連携についての確かな情報収集と分析・整理
- ② 文部科学省、厚生労働省関係、日本学術会議をはじめ、日本看護系大学協議会、日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会等諸機関の活動状況の把握をし、必要な提携・協力及び支援活動を企画・実施
- ③ 啓発活動のためのセミナーの実施
- ④ 上記①～③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 河口 てる子（日本赤十字北海道看護大学）
- 小松 浩子（慶應義塾大学）

3. 活動報告

- ① 日本学術会議における分科会に参画し、看護学ならびに看護学教育に関する情報収集、課題の分析をすすめた。
- ② 大学設置・学校法人審議会における専門職大学認可の動向に関する情報収集
- ③ 日本看護系大学協議会との合同基礎調査における協議事項の検討（大学運営・経営委員会とともに）
- ④ 日本看護系大学協議会と高度実践看護師のグランドデザイン委員会への参画

4. 今後の課題

- ・ 関連諸機関の活動状況の把握をさらに進め、必要な提携・協力及び支援活動を企画・実施に移す。

6. 広報委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の目的の達成に寄与するため会報・その他刊行物の発行
- ② 会員校への情報伝達及び会員校間の情報交換
- ③ 本法人の活動の外部へのPRのためホームページの企画運営
- ④ 上記に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 波川 京子（川崎医療福祉大学）
- 山口 桂子（日本福祉大学）

3. 活動報告

- 1) 会報第39号は2018年5月1日に発刊
発刊数配布先内訳：会員校 各50部
事務局 200部
会報第40号は2018年11月1日に発刊
発刊数配布先内訳：会員校 各50部
事務局 200部
- 2) ホームページに災害見舞いメッセージを掲載
- 3) 会報第40号に「有料職業紹介事業所について」の情報提供を同封した。
- 4) 会報第41号の編集企画は理事会で承認を得て、原稿の依頼や入稿は電子メール等で行った。
発刊は2019年5月1日が休日のため、4月26日を発刊予定日とした。

会報は年2回、5月と11月に発行し、会員校に50部ずつ送付しています。平成30年5月1日発行の第39号は、前年度の理事会、各委員会の活動報告、私立大学研究ブランディング事業に採択された会員校2校（関西看護医療大学、佐久大学）の取り組みを紹介しています。事務局からは研究助成事業の募集、社員総会の案内、2018年度役員選挙の流れを掲載しています。

11月1日発行の第40号は、「平成〇年」と記載できる最後の会報になりました。内容は、7月の社員総会で会長に選出された大島会長の挨拶と、その中で平成30年度の重点事業方針、①新たな理事会・委員会活動の継続的な活動をする体制づくり、②研修内容の体系化と実践・評価、③私立看護系大学運営に関する政策の把握と発信、④事務局体制の強化、を示しています。選挙等で選出された役員（任期2018年7月13日から2020年社員総会まで）、新規会員校10校（関西医科大学、駒沢女子大学、仙台赤門短期大学、大東文化大学、東京医療保健大学千葉看護学部、東京医療保健大学和歌山看護学部、常磐大学、名古屋学芸大学、西九州大学、和洋女子大学）を紹介しています。平成30年度の研究助成を受けた看護学研究奨励賞5本と国際学会発表助成6本の抄録を掲載し、若手研究者研究助成決定の9題を公表しています。

2019年5月発行予定の第41号会報に向けて、私立大学研究ブランディング事業に採択された会

員校2校から取り組みの概要を紹介いただきます。各委員会には活動報告を依頼しています。

社員総会後の講演会は、平成29年の学校教育法改正で制度化された専門職大学・専門職短期大学について、文部科学省大学改革官から講演をいただきました。専門職大学は4年の課程を、前期と後期（2年+2年または3年+1年）に分けるような既存の大学・短期大学にはない教育課程を編成できることや、前期課程修了で「短期大学士（専門職）」の学位授与ができる仕組み、社会人の実務経験を臨地実務実習の単位や修業年限に通算できる特徴などが説明されました。講演の中で、看護は既存の大学教育においても、理論と実践、実務家の教員、病院との人事的な往復も含めて確立しており、素晴らしいモデルとの見解をいただいています。この講演内容の詳細は、第40号の紙面にまとめています。

広報委員会の事業の1つに、会員校への情報伝達及び会員校間の情報交換がありますが、11月発行の会報には、日本看護協会から情報提供があった「有料職業紹介事業所について」を作成し、学生の就職指導の参考用に会員校に発信しています。

また、本法人の活動の外部へのPRのためのホームページの企画運営の事業は、昨年度に大幅な改修を行っています。会長挨拶の更新、本協会事務局地図を追加するなど改訂を行っています。7月の西日本豪雨と9月の台風21号、北海道胆振東部地震で、被害にあわれた会員校、復旧にあたられている方々に、何らかの支援ができないかと思案し、お見舞いをホームページに掲示しました。

4. 今後の課題

会報、年報、その他刊行物を効果的に活用して、その内容の整理及び充実を図る。